



澄城縣志二卷

玉泉石道立

撰次

儒學教諭魏天瑞訓導王繼王廷弼 較正

邑人路世美增修 男路一麟 重訂

人物志

宦達唐魏叔玉鄭國文貞公魏徵長子次叔琬叔璘

叔瑜初太宗賜徵莊田於唐上輔馮翊郡之北徵其

子孫世居焉遂為澄城人叔瑜為豫州刺史善草隸

以筆意傳其子魏華及其甥薛稷世稱善書者前有

虞褚後有薛魏



魏克明徵

缺

世孫武宗會昌四年封兵部常選五年

封黃門侍郎次年封中書舍人

魏扶徵三世孫登太和四年進士第會昌六年差授

趙州刺史太中初知禮閣入院題詩

魏暮字子舉

唐書本傳作字申之

徵五世孫擢進士第武宗會

昌六年八月差授為峽復鄜州宣宗太中元年差授

同州刺史二年封兵部侍郎三年封守本宮門下侍

郎兼尚書次封中書門下平章事宜封中書門下侍

郎兼檢校尚書又兼封禮部尚書詔封尚書左僕射

封賜勞使封為高昌駕部郎中次封韓國公又次封

晉公大王夫人朱氏封郡夫人朱司馬長孫女叻文

宗讀真觀政要思徵贊詔訪其後薦暮為右拾遺嘗

問鄉祖書詔頗有存否暮對惟故笏在帝曰此笏乃

今之甘棠

有故笏記茲不錄

後相宜宗議事天子前他相或

委抑規諷惟暮黨切無所回避宣宗嘗曰暮名臣後

有祖風朕心憚之然卒以剛正為令狐綯所忌讒罷

之贊曰暮之議論挺挺有祖風烈詩所謂是以似之

者與

今按暮墓在蒲城縣南十五里宜安村唐穆宗長慶四年此縣已割入奉先墓在蒲城其未析

之前

與

宋魏道嚴徵十五世孫神宗熙寧元年差授同州司

法參軍使又宣封為同州節度使三年為潞州長史五年為兵部侍郎六年為西臺御史大夫

曹景儉政和中人其甲科無可考曾撰新修普濟寺記必當時之文人也姑依年代附此

金魏彥直徵十六世孫天會十二年差授趙州刺史元成元年封為同州節度使天眷二年封為中書門

下侍郎皇統元年封為禮部侍郎劉稽號中山大定間官進義校尉

裴天民字先覺官差檢察華州事李師徵進義校尉守蘇門同監

雷師易號沮陽野逸萌昌州人曾跋觀妙堂詩其中

科官職不可考姑依年代附此魏下徵二十世孫乃武節將軍也正大八年差授峽

復鄜州又宣授節度使九年兼授兵部郎中後宣授延安府安撫使

今按魏氏自克明而下六人出魏氏轉官圖并家譜弘治初縣丞魏鑑竊

去鑑山西蒲州寒葉村人按石道立曰傳謂天之生物使之一本故武襄不附梁公異翁不祖六一惡忘本也魏鑑竊譜與

哭子儀之墓者同一用心其忍於忘本也哉肆今文貞華胄泯然無徵重貽稽古者之恨鑑之

不仁甚矣

元實邦傑前至元間任廣安州知州

趙信遵教社人東漢趙岐之後初以儒生貢河西隴

北道廉訪司泰定四年授邠州新平縣尉元統元年

以從仕左郎授夔州路總管府知事後至元丙子追

贈父慶為從仕左郎奉元路澄城縣尹

鄭英陝西行省參知政事

選舉舉進士者唐魏扶魏暮俱有宋王殊字子楊時

中官至樞密使李某元豐楊植監察御史金趙彪韓

師古宗源趙庭實俱明昌間人王嘉猷安州人承元

齊天祥元間人王孝道舉鄉進士者唐姜元素元

間宋張天錫皇祐金宗有缺李撫權綱元楊建中

御喬缺其舉秀才者元趙信有雷清隱逸

明初潘友直以茂才舉歷工部杜實以明經舉洪武

賜六權士安以人材舉南

明進士許英字文傑成化戊戌科授南京戶部

良字之方萬曆己未科授陳留縣孫士髦字仲譽天

授戶部主事陸王廷賓字賓王崇禎戊辰科聯捷王

拱極字薇垣辛未科聯捷授

舉人李革洪武庚午縣雷實定州訓導雷恭永樂乙酉

御史... 周肅... 洪洞... 羅綱... 權大用... 任甲午... 科

縣丞... 石王鵬... 安陽... 鄭敦... 刑部... 丁酉... 科

乙卯... 科... 華陽... 訓... 鄭... 刑部... 丁酉... 科

任... 平遙... 陽曲... 宋志聰... 庚午... 科... 鴻臚... 序... 班... 授... 馬圖... 景泰... 科

商... 河... 訓... 導... 宋志聰... 庚午... 科... 鴻臚... 序... 班... 授... 馬圖... 景泰... 科

保... 德... 州... 學... 張夢輔... 隴... 子... 癸酉... 科... 鴻臚... 序... 班... 授... 馬圖... 景泰... 科

正... 有... 傳... 張夢輔... 隴... 子... 癸酉... 科... 鴻臚... 序... 班... 授... 馬圖... 景泰... 科

順... 已... 知... 科... 張夢輔... 隴... 子... 癸酉... 科... 鴻臚... 序... 班... 授... 馬圖... 景泰... 科

甲... 午... 科... 任... 張銳... 夢... 輔... 子... 丁酉... 科... 鴻臚... 序... 班... 授... 馬圖... 景泰... 科

臨... 晉... 訓... 導... 張銳... 夢... 輔... 子... 丁酉... 科... 鴻臚... 序... 班... 授... 馬圖... 景泰... 科

知... 州... 馬... 駙... 訓... 導... 張銳... 夢... 輔... 子... 丁酉... 科... 鴻臚... 序... 班... 授... 馬圖... 景泰... 科

田... 知... 縣... 舜... 夫... 弘... 治... 王... 子... 科... 大... 谷... 張... 時... 乙... 卯... 科... 朝... 王... 師... 訓... 導... 尊... 朝... 王... 師... 訓... 導... 尊...

古... 陳... 留... 知... 縣... 王... 忠... 戊... 午... 科... 張... 廷... 用... 字... 以... 忠... 甲... 子... 科

二... 縣... 許... 世... 昌... 字... 順... 德... 莫... 子... 甲... 子... 科... 張... 廷... 用... 字... 以... 忠... 甲... 子... 科

有... 傳... 許... 世... 昌... 字... 順... 德... 莫... 子... 甲... 子... 科... 張... 廷... 用... 字... 以... 忠... 甲... 子... 科

字... 汝... 直... 正... 德... 莫... 子... 甲... 子... 科... 張... 廷... 用... 字... 以... 忠... 甲... 子... 科

縣... 知... 縣... 陞... 雅... 州... 知... 州... 有... 傳... 韓... 相... 庚... 午... 科... 張... 廷... 用... 字... 以... 忠... 甲... 子... 科

和... 丙... 子... 科... 河... 南... 田... 養... 民... 德... 字... 希... 仁... 庚... 午... 科... 張... 廷... 用... 字... 以... 忠... 甲... 子... 科

府... 通... 判... 有... 傳... 田... 養... 民... 德... 字... 希... 仁... 庚... 午... 科... 張... 廷... 用... 字... 以... 忠... 甲... 子... 科

嘉... 靖... 乙... 酉... 科... 關... 冕... 辛... 卯... 科... 黨... 田... 字... 子... 力... 乙... 卯... 科... 白... 文... 魁... 應... 字

僱... 師... 知... 縣... 關... 冕... 辛... 卯... 科... 黨... 田... 字... 子... 力... 乙... 卯... 科... 白... 文... 魁... 應... 字

車... 字... 公... 御... 上... 簿... 金... 孫... 辛... 酉... 科... 歷... 威... 州... 知... 州... 有... 傳... 鄭... 札... 字... 文... 伯

簿... 叙... 州... 府... 同... 知... 卒... 于... 官... 祀... 名... 官... 鄉... 賢... 有... 傳... 鄭... 札... 字... 文... 伯

歷... 監... 運... 使... 有... 傳... 李... 思... 誠... 字... 伯... 修... 隆... 慶... 庚... 午... 科... 高... 士... 徵... 字... 應

午... 科... 縣... 兩... 曹... 烈... 字... 承... 武... 萬... 曆... 壬... 午... 科... 韓... 一... 良... 號... 有... 懷... 癸... 亥

安... 府... 學... 舉... 曹... 烈... 字... 承... 武... 萬... 曆... 壬... 午... 科... 韓... 一... 良... 號... 有... 懷... 癸... 亥

見... 進... 府... 學... 舉... 曹... 烈... 字... 承... 武... 萬... 曆... 壬... 午... 科... 韓... 一... 良... 號... 有... 懷... 癸... 亥

士... 下... 進... 府... 學... 舉... 曹... 烈... 字... 承... 武... 萬... 曆... 壬... 午... 科... 韓... 一... 良... 號... 有... 懷... 癸... 亥

拱... 辰... 字... 北... 仰... 敬... 授... 崇... 教... 長... 路... 世... 龍... 字... 乾... 初... 府... 同... 車... 孫... 王

拱... 辰... 字... 北... 仰... 敬... 授... 崇... 教... 長... 路... 世... 龍... 字... 乾... 初... 府... 同... 車... 孫... 王

拱... 辰... 字... 北... 仰... 敬... 授... 崇... 教... 長... 路... 世... 龍... 字... 乾... 初... 府... 同... 車... 孫... 王

科以選貢舉 王鳳翥 字冲宇 甲子科 縣 王廷賓 貢

丁卯科 官秩 王拱極 教授 崇教 次子 庚午科 以管太

見進士 下 西科 路世美 字繩烈 府同車 孫通判 從

音 字希聲 癸酉科 縣教諭 任鞏昌 科以貢士 舉授

東光 韓九有 字適晦 邑卯科 任鞏昌 科以貢士 舉授

知縣 焦鎬 松江府 白企 清源 知縣 周鎬 河南 按察 郭衡 汝州

貢士 焦鎬 松江府 白企 清源 知縣 周鎬 河南 按察 郭衡 汝州

知雷 旻 保定府 王璉 蒼梧 周鎬 河南 按察 郭衡 汝州

郭懋 賓州 梁杲 寧鄉 王禮 芮城 惠德 昆明 賞弘 孝義

馬 川 萊蕪 彭慶 單縣 周祥 肅州 寧波 鄭瓚 知青神 梁

佐 肅寧 龐欽 芮城 孫英 石州 王敬 鈞州 周廉 鎬 孫平

岳陽 杜亨 定襄 訓導 曹貴 金吾 後衛 經歷 陸路 祥 順

府照 韓冠 大同 前 袁吉 西克 孫禎 仕 孫恭 叙州 府 袁

祥 未 郭儉 封丘 孫茂 仕 田莊 仕 白璧 麗江 府 照 磨

焦璉 徐溝 縣 宋應魁 志聰 子 未 周禮 寧主 簿 寬 衷 完

訓導 孝 王相 仕 未 蔡文學 字百川 太 楊得春 字伯魁 有

傳 鄭經 員外 數魯 孫歷 遼東 太僕 廉仲祥 字天瑞 未

周世傑 廉子 原武 孫麓 字天錫 吳江 溧水 縣 田伯政

定興 白潔 字淨之 授懷安 衛 經歷 楊慶 北 京 大 倉 經

知縣 衛 寔 守 經 表 子 蒲 州 同 知 致 仕 有 傳 杜 芊 字 時 暢 亨 子 郊 雷 鉞

字 德 威 歷 靈 山 韓 汝 聽 冠 子 齊 高 景 異 仕 未 路 金 字 寶

豐 潤 縣 主 簿 楊 未 庭 子 授 羅 周 珽 山 西 都 姚 璠 仕 未 馬

卒 于 官 有 傳 楊 未 庭 子 授 羅 周 珽 山 西 都 姚 璠 仕 未 馬

登 戎 系 志 卷 二

躍如 字凌霄 駙子 大同行 王守正 未仕 杜曉 字子健 杜

冕 字子遵 化縣丞 馬徐 躍如子 任經歷 安經 未仕 賈克

敬 未仕 楊體元 白楨 平順 訓導 焦源淨 子璉 石道立 字子修

傳 宋世傑 子應奎 路雲鳳 字陽椿 祥孫 隆慶中 白鳳 字

同 府通判 鄭沛 經子 油 白檀 杜一奇 字河華 冕長

馬 自渭 徐子 選貢 孫嘉士 大同 杜一岸 字子登 冕次

照 縣知縣 陞淮 袁汝度 平遙 縣 曹式倬 開封 府 孫恪

王 府教授 韓應試 選貢 任吉 韓應第 文水 縣 白瑀 字

通 判 鄉賢 有傳 韓淑與 汝聽 孫選 貢 懷慶 府 通 袁

祭 雅 字純齋 王詩 寧夏 衛 趙斗 歷城 固 路學禮 字龍

次 子 萬曆 王崇教 字振宇 授扶風 訓導 歷慶 張恭

雜 川 李仰 宜川 常光元 鎮夷 所 孫士鸞 字祥吾 泰昌

有 傳 路世龍 甲子 科 詳見 舉人 下 白麒 字瑞明 鸞

名 通判 歷晉州 知州 韓允升 字洪陽 河 韓應科 字遇

仕 孫鉞 字貫黃 士鸞 子崇 順 恩 選 任 德 安 魚 應 時 字

仕 趙領 字化字 斗子 張端 字嚴 吾 臨 頴 路 世 美 車

仕 賈推 字引庭 權時昌 字明之 歷沂州 州 判 賈 藍 玉

仕 李抒素 字玄之 知華 趙軌 新臺 孫 楫 山西 運 姚

例 貢 張庸 許州 寬簡 長清 縣 趙 軌 新臺 孫 楫 山西 運 姚

昂陽曲鄭照主簿陳源廣昌千戶張洪大使張顯

四川鹽課張整吳縣姚資北京巡李福嘉定秦儀

三渡水李桂隆平鄭錫吳江鄭冠大同寬憲順德

容未李森未李後順天張紀歷縣野河律姚卓序

陞合州趙輔沂府張鱗未石天牲未趙希聖蘇州府

寧府權隆懷來衛經白緝宗忻州王維翰德陽權惟

誠原武樊永富未孫光祖麓許士世子楊未雄府照

磨鄭思義長沙府黨九牧寶豐路園未仕馬白河

字龍川自渭兄劉崇儒武鄉許必先徽州府路從廣

保安州吏目長子歷儀且安邑王簿陞平虜

字一玄金係車長子歷儀且安邑王簿陞平虜

獲大同左馬鵬字光川白渭子歷承天衛經路從度

字兩齋車次子授宣黨民讓字遜恭京衛經路從康

城縣主簿致仕有傳未王拱極辛酉利副榜恩張熠

字三子未仕馬學健未劉養氣字浩堂施黨繩武字

如班呼應順字興字小劉養氣字浩堂施黨繩武字

字九駐掄字簡庭許日堧烈子劉紹基養氣王拱極

牧孫時聘子堧烈子劉紹基養氣王拱極

禮這京亮應務乾以陳力王詔王寵李春古清楊士康王之損

國朝進士楊本春字光美順治丁亥科授泌陽縣知縣

舉人楊本春順治乙酉科官白意字獻亦通判鳳魯

秩見進士下

孫戊子

貢士杜房

字繼所一岸孫順治

王在京

字依其未仕

趙鴻

儒 字稟乾

寔績武

字念祖主簿九牧孫戊子

武科金魏下

武節將軍

明潘澄

尚書孟舉子初進錦衣衛隨奉應天征討有功陞直隸小旗永樂二年陞陝西寧羗衛千戶

永樂十年存留南

任傑

固東里人西安左衛指揮嘉靖丁酉備禦固原累立戰功

京守衛世襲不陞

歷都督僉事領守寧夏謀勇兼資為虜所憚

歷都督僉事領守寧夏謀勇兼資為虜所憚 寔廷俊

字秀若崇禎壬午科解元

按石道立曰吾澄之士其進用於時者詳矣諸君

子豈無表表可稱述者顧縣人無志今且無述

後將何傳吾為此惧欲遍詢以著其實而未之

逮也姑以行誼顯然者附錄餘俟高明君子補

入昔人謂蓋棺而後論定故生者不列其行事

名賢潘友直字孟舉以字行洪武初錄茂材舉從

太祖高皇帝江上克勦陳友諒屢畫奇策陞南京工

部尚書所至輒有聲績習儉服勤終始一節後乞骸

骨歸朝廷寵賜大銀歸邸悉賞軍士同妻驅驢而歸

不乘驛傳行李蕭然惟圖書數卷而已

上使人問知之嘉其清介賜鄉宴終其身先生益亮

節砥行不詣公庭不干官政薄田敝廬晏如也後以

壽終於家嘉靖間祀鄉賢
權士安字惟寧洪武二十三年錄人材授大名府南
樂知縣至則詢民疾苦勸課農桑修葺廟學城郭祠
宇壇舍百廢畢舉政暇則勉勵學較文風藹然而
雷恭字時敬清之第五子錄舉人初授交趾道監察
御史出按山西風裁凜凜時大臣有不法者即抗疏
劾奏之嘗諤自將權倖側目天順初與御史楊瑄劉
泰等極論石亨擅權中官潛謀劫主眷不報其言事
莫廟謫戍遼東後山西王虎鎮崇弄小兒術士驅遣
不能除有違者朱書監察御史雷敷字貼小兒背遂
就安今彼地猶有雷打鬼之名嘉靖間祀鄉賢

鄭瓚字廷器知青神縣事六年清而不污行資之外
無餘物時與其廉焉

曹貴字天爵初授北京金吾後衛經歷擢判深州時
遇漚沉河決乃起夫萬餘相壅塞豐隄防不踰月復
如故深人德之

宋志聰字文會錄序班轉華亭縣丞天性穎悟治內
外事循規矩言必忠信非道義絕不出口
王淳字子厚誠篤長者也博學能詩文任保德州學
正能以所學淑人解官歸慕司馬溫公為人每舉動

必書曰吾用以自考也接人無大小貴賤一以誠觀之讀書談道老而彌篤時稱古君子焉

李瓚字宗器忠信質實好學之心老而不倦官至

潘府長史

許英字文傑初授南京戶部主事督糧有方陞本部員外郎中每承委任不愆于經後以疾卒于家祀鄉

賢

馬駟字世臣投絳州訓導諸生問難者填門墻擢知代吉二州視民如傷比卒于家吉民間計多來吊祭者

宋應奎字廷佐以歲貢從侍御史按歷四川性素豪

縱不屑小嫌與侍御不合拂衣而卒

田畊字舜夫初任大谷知縣後知廣陵二年邑乃大

治遷順德府判專理京儲事集而民不擾

楊得春字百魁任偃師縣丞偃師地當邱山西北有

黑龍潭每夏秋霖潦水決入城如注官民罹其患春

率徒役數百人修白虎堰障於東南怒濤不復為患

又嘗通縣北舊絕水之泉平嵩邑久不均之患民到

于今稱之

鄭經字大經初任遼東太僕寺行主簿克勤綜理益

懋操持最績足書賢名允著陸山西繁峙知縣歷官十二年行囊所有僅足以資路費

廉仲祥字天瑞其貧嗜學誨人不倦讀書以窮理為先為文以意會理以辭達意不為嶄絕奇詭之體講說獨喜蔡虛齋蒙引曰學貴窮理文詞非所急也先生形體癯然若不勝衣至談道義即滾滾如懸河時學者多宗之道立總角時即獲侍先生目擊道存啟發之教弘矣

周世傑字廷英任原武主簿顛直循理公清守法民以長者稱之

孫麓字天錫初授吳江水利丞暨擢出淪黃州大熟再丞溧水職專理餉會驕陽如焚租徵如額乃移牒申丞徵視稔入後陞南溪知縣卒
白潔字淨之初授懷安衛經歷單騎之任不携妻子妻卒誓不再娶考績擢道州同知致仕平生朴實耿介廉靖寡欲有古君子風

杜莘字時暢任岢縣訓導時流賊據縣洪厰鋪莘方署縣募得精兵數百人襲擊大破之
雷鉞字德威少有雋才屬文輒能警人小詞尤嫵媚十一人爭慕效之後以貢補咸寧侯府訓導尋改靈山

衛司訓卒於官張雲谷詩曰道方無俗樣心樂任官
移觀此可以知其入矣

路金字寶之性剛介通尚書學呂家篤于孝友後授
豐潤簿專督馬政每番例得錢若干緡乃一毫不取

甫期月疾作或勸之納賄輒怒叱曰欲吾不瞑目泉
下耶不旬日乃卒貧幾不能歸足以驗所守矣

張紀字廷憲歷任鉅野河津縣丞清謹剛方民心畏
服未五十致仕知府王青門留之竟浩然歸矣

許世昌字順德任太和知縣以績轉開封府判陞順
慶府知府時蜀饑世昌悉力賑拯又請蠲給牛種

城屢崩于水民苦歲後世昌開渠西山以洩之奉檄

勦平涪州小河群盜欽賞銀二十兩已疏請終養起

復承天攝行太守事值世宗南巡夙夜拮据又改

建陵寢增建司衛遂以勞邁疾而卒

楊庭字汝直初知太原縣太原民好訟庭澹事嚴明

歲餘俗革擢知雅州除虎患弭江害于雅人稱有德

焉

權隆字世熙任懷來衛經歷誠確清謹人以活佛目

之屢膺委用人莫敢欺焉

張廷用字以忠博洽能詩文歷任屯留羅山知縣所

著有宋元小學史斷行世雲谷詩集詩話藏於家
 馬躍如字凌霄任大同斷事勤幹清苦疑獄多所平
 反當道與其能後謝事家居事有難決者人多就而
 石道立字子修博洽能文章創縣志充有吏才
 白鸞字應和任河南府判主度餉兼河道務極叢冗
 罔弗即叙藩臬器之

田養民字希仁任德威二州知州治理有方事繼母
 能得其歡心後以疾卒於官

路車字公御能詩文弱冠以孝廉舉性至孝處異母
 弟無間言澹泊寡營終身不納一妾銓試第一除威

州州故姜維地羌夷叛順靡常車以信義柔綏九年
 無敢犯境松潘反無當道僧為贊靈旋即削平天語
 勞之云飲至明軍旅酬勲錫武功陞叙州府同知卒
 于官萬曆間威州祀名宦天啟間祀鄉賢

鄭札字伯文少有志操負笈馬文莊之門砥厲行業
 嘉靖甲子舉於鄉起家學博轉陽信尹誓不愛錢在
 法邑用是執服以憂歸起補新樂塔土午道百務崩
 弛札裁冗拊罷民不勞而政舉擢戶部主事出知夔
 州皆有能績後陟兩淮運使卒于位

杜一岸字子登精有才幹初任甘照縣值倭人人寇

岸守禦有方四境不擾旋繕城池勤勸者四年以績陞淮安府通判狀元焦竑爲文以送之

白琚字報吾個儻重義鄉間多賴賑恤授通判駐劄居庸附近皇陵中貴旁午驛驟病民琚不畏勢阿徇愛民不受官軍民德之天啟間祀鄉賢不受鹽課韓淑與字士善性醇和處鄉黨接誘循循尤篤友愛自食貧至宦成不有私財教宗弟給諫公成名臣遠邁儀之

韓一良一字象儒生而厚重實訥清正有執出處動模聖賢讀書喜體會不事記誦爲文如其人鄉薦後

竿牘請託痛絕不爲及登制科釋褐知陳留矢諸大日不以民間一錢自潤全副精神注於忠君愛民四字天啓間璫熿薰灼逆祠遍天下仕豫者翕然風從公獨不舉其風烈如此七年不調尋以公論難泯推清官第一授戶垣卽極言文官愛錢陋習上嘉納之召對平臺奉有破格優擢風勵有位之旨上方求治太急索奏數上內外股栗中忌者于御前諷令指名倉卒忤旨遂輟會院之推得嚴旨卽策蹇歸里栖遲午西寺足跡不歷城市僕僮產業宅第一無改于做秀才時角巾布袍非素識者不知

其爲給諫也海內仰若山斗起用之章毋慮數十上
終不起物後子弟苦貧至不能治喪具蓋輓近以來
所罕覩也原疏不勝刊惟紀初入垣一疏于藝文志
中以見公之梗概焉崇禎十六年十月祀鄉賢厥後
長子繼武以烈節死議者謂有門風云
王崇教字振宇長厚博洽早歲以明經授右扶風歷
天水北地三振教鐸皆以敬敷開攝真寧篆不取一
毫羨餘比致仕行李蕭然惟誼頌帙滿奚囊耳家教
有義方二子競爽名譽翕集不以子貴改其素居恒
言猶箴銘鄉黨有孝有行者必以題咏獎成之年踰

九黎如一日四方賢者慕之頌之所彙有榮壽集順
治間祀鄉賢

孫士髦字仲譽韶齡成進士十年方赴銓主戶政
密雲糧儲一年節省四萬餘金戶部奏請紀錄奉有
潔已慧公風廟九邊之 旨後因營將王靖東糧冊
錯誤該部駁奏繼差西勸監事鄭希謂覆查不意挾
私中傷雖有臺省畢自嚴王志道等會奏昭雪未蒙
俞旨遣潼關衛戍屠家築丸轉山居閉門自娛崇禎
末年爲僞亂脅營莫知所終
路從廣字一玄初任安邑委征解梁漢壽侯廟稅誓

不染指一錢改司儀封河務去小宋積木為民開沃地百十餘頃浚人勒石記績歷陞寶慶通判以水土不服致政歸家惟挾一鶴而已又精六法以王叔明為宗一時良史日日關中鸞全謂遠鸞有顧氏書譜悅生近語長安碑洞觀首行於世譜集尤富唯摘一二見藝文志

孫士鸞字祥吾官至西城兵馬以不附逆瑞被嚴旨解組教堂弟孫贍園成進士曾無驕色鄉閭稱焉

白麒字瑞明事親孝以明經授別駕駐劄懷安縣邊

功轉河間府倅河間盜藪也麒弭禁得法盜息民安里人負債者多不肯償

路從度字兩齋繇劍外扶父視歸肝隨廬墓二年

神宗朝奉差冊封肅藩後授宣城簿未踰期不忍艱艘病民遂致仕歸卜築澂水之裔以適志終焉

王廷賓字觀光繇進士任鄆陵永城二縣以卓異考

選疏上下躋歸里崇禎八年破城遇難

續曰鄉賢典矣賢而未典畧之非義也進之非制也舊志鄉賢未立別傳故余亦不敢改為仍

以鄉先生之公論所歸者依次附錄俟采焉聞

見所不及者尚需後賢補入若曰枉是非而

為軒輊則

吾豈敢

孝子李茂生員母党氏患惡瘡茂口吮膿血每夜焚香祝天願以身代母歿結廬墓側時暴雨如注懼水嚙母墓覆而號泣倏然雨止人以為孝感父歿廬墓哀毀如母天順六年旌表

續曰李氏三世旌表可以風矣茂之詒謀不既減哉

李表茂子同弟監生李森善事父母克修子職親終同廬墓所弘治七年旌表
寔表監生性篤孝年十三母亾即欲廬墓父止之後父卒廬于墓側食粥飲水負土築墳植柏數十株鬱然成林烏鴉群集白兔馴擾弘治八年旌表

李後監生父表沒後方弱冠哀毀骨立結廬墓側朝

夕拜哭及母卒復廬墓含哀三年正德二年旌表

韓舜璿通振里人天性純孝母歿欲廬墓父止之乃

居中門之外夜則臥苦枕塊晝則奉父甘旨三年不

入內寢母素畏雷每雷聲作即奔號墓旁不啻衛護

然雷止始歸嗚呼舜璿殆事死如生者與

田占先進里人姚珊業善里人親終俱廬墓哀毀惡

衣菲食三年如一日時與其孝焉知縣敖佐扁珊之

門日優崇孝行

路同科生員為舉人路車門人讀書必躬行父母次

第見背哀感異常俱為廬墓三年無頃刻離墓側同

庠敬服事聞于上賜官帶扁其門曰孝子
段邦進時庄里人乳抱失怙恃祖廷貞撫育成立雖
未嘗學問天性仁孝事乃祖必體其心好施輕財雖
至破產不悒養塋盡禮縣學申請順孫以冠帶寵異
之
靳香生員幼失父家貧母蒙氏績紡治生及香稍長
惇謹好學爲人作塾師每念及孀母孤苦以不能供
甘旨爲恨遇馨膳泣下不忍食母病且革嘗糞驗其
胃氣人莫能及知縣黃榜扁其門曰真孝子
趙大治親喪廬墓三年慘頽泣慕不衰

烈女姚氏縣北定國村姚某女也相傳爲唐時人女
嫂李氏不得於姑每鞭笞女輒以身覆之及笄將適
人忽正襟危坐而逝嫂念舊恩以死相從於地下鄉
人立祠祀焉今祠肖女像真骸包泥像中人嘗以簪
錐挑視之其骨色黃如金前生一柏覆祠上柏腹兩
乳隱起相傳謂嫂所化生遠近異之
明白氏長閨里白豸之室女聘于蒲城申起龍年未
及笄聞起龍病劇欲往焉父母不可曰豈欲復字我
耶當其許之已無他矣弗能強至其家未幾夫死悲
咽欲絕家人防之甚周念夫無後撫嗣五十年未嘗

一從親戚家女德之貞義幽閒何以加此蒲城教諭
舉人孫克明爲作傳時天啓四年也
節婦金師氏縣南雷莊人年十八適雷氏至二十四
歲未有子而夫亡誓不再嫁篤養舅姑始病革諸藥
不效氏潛割臂肉雜飲食以進姑食之病乃瘥後舅
姑俱逝又二十餘年其兄師遠猶子雷判欲利其產
私許楊珍訟於官氏度其難免遂赴庭井而死明昌
二年採訪使以事聞特旌貞潔逮明昌四年義宏詞
科試諸進士及第者出師氏節婦傳爲題中選者四
人涇州錄事郭鞞第一序傳贊卽郭試卷也見藝文

志

明王氏大賢里梁孝恭妻元至正間年十八卽寡居
中更兵亂節不少易奉姑以盡其孝育子以成其家
有司狀其事洪武七年三月旌表

蔡氏郭下里石愷妻廩膳生蔡郁女年十九生子秉
常甫六月而愷卒時祖父母俱存年且八十始李氏
孀居亦年六十氏堅守一節仰事俯育辛苦萬狀後
祖父母及姑各以壽終喪葬如禮子亦成立氏平日
居家嚴正雖對子姪未嘗有笑容族里咸敬仰之有
司上其事弘治十八年三月旌表卒年八十有三

康氏業善里李吉妻年二十四夫亡一女在襁褓誓不再適孀居六十年終始一節有司奏聞旌表
周氏業善里姚璉妻年二十而夫亡零丁孤苦紡績自給至五十七而卒人無間言有司奏聞旌表
王氏大賢里鄭伯玉妻年十七適伯玉生子漢方七歲潔方五歲而夫亡姑魚氏孀居治家嗚嗚然氏妻以柔順將之卒能得其歡心成化二十一年大饑有勸之他適者氏以死自誓事姑以終天年育子以成家道孀居四十餘年無非議者知縣敖佐扁其門曰節孝

孫氏王帶里白洪妻夫早卒氏孀居四十餘年克勤紡績處妯娌以和勝育夫弟之女如也出且厚粧歸之教子檀成立今爲國子生知縣敖佐扁其門曰節壽

馬氏臨川馬處士會之女廉先生仲祥繼室也先生素寒士妻亡貧不能更娶處士曰生女得配奇士財不足論也遂命歸廉氏年二十八夫亡所生二子俱幼撫育前妻子介過於所生日非此子無以立門戶也茹苦含辛劬勞萬狀至今年踰七十未嘗一日去介介亦忘其爲繼母也且其一節自守終始不渝婦

道母儀馬氏兩無愧矣知縣教佐扁其門曰賢節
和氏先進里田達妻年二十二而夫亡謹守閨門誓
不再醮撫育二子今俱成立知縣教佐扁其門曰貞
節

陳氏以室女適甲午選貢杜寘任眉州判抵任未半
年物故拋氏年廿七舉子三長一尙方五歲次一岸
二歲又次一岩既視三月始生時氏寡子幼扶柩歸
家郎當數千里外人情所不堪也後家道蕭索飢饉
相繼堅貞茹苦肩寒暑而躬督耕農對星月而自業
績紡教養三子俱有成立四十餘年毫無瑕點方之

柏舟之婺莫是過矣知縣陳力扁其門曰柏舟齊芳
路氏廓下里耆民路義長女十五歲適辛卯舉人關
冕甫年半生子關渾方四月而冕暴卒爾時氏才十
六哀痛幾死勉強葬夫紡績爲生孝事舅姑終以禮
葬慈養幼子成人時歷地震兼值凶亂堅守不效年
已七十無異議知縣暢孟樂扁其門曰苦節又曰守節婦人
所難而陳氏路氏之節獨苦先此推官吳訪其事呈請察院劉甫奏因丁憂不克行後同知顧亦呈察院任因病故寢予因志之以俟後焉

路氏鄉賢車女年十七適馬鸚鵡二十病故氏痛欲
死姑慰以撫孤事難氏遂爲其難者以緯絮易篝燈

課子鳴霄成秀才苦守六十餘年壽至八十知縣毛
丹鳳題以松筠高節察院高鴻圖扁爲節婦之門歲
給谷二石布二疋塩院督學亦如之

孫氏年十八擇配庠生鄭柄生一女夫攻苦早世氏
卽墜井姑急拯之汲至未縞方挽氏髮桶復墜若有
陰翼者然勉撫幼女女旋死子嫫子女姊女以上壽
終焉知縣高一夔以貞靜超塵表之韓城進士張邦
俊爲作傳

呼氏生員李朱盡妻事姑舅盡孝姑舅念婦一手紡
績經紀閤家勞悴難任欲爲幼子析筋另立門戶氏

不可曰小叔未成立柰何貽憂老親盡愈感奮讀書
不意嬰疾未起氏痛而絕絕而甦復自念曰我有遺
腹勝亦覺有娠先君子血胤或未斬乎事未可知姑
忍死自護可耳後竟兩無一成嗟乎天也非人之所
能爲矣于是決意從夫地下乃于崇禎八年孟冬望
夜得間而經死焉其情酸苦激烈士紳悲悼不已聞
之採訪使而得

俞吉俾建坊表焉文移縣以時事倥傯未舉青城出
人同州王弘祖爲作傳
寔氏路世榮妻邵陽縣舉人寔炤女讀書通孝經大

義適夫八年恪修婦職男女無所出夫故將入室氏
 踴身投隧求其必死已而戚屬悲氏年少無出勸之
 他適氏曰有出無出姑勿論也名節為重狗彘之行
 豈可為乎不聽勸言遂斷葷孀居四十餘年如一日
 知縣毛丹鳳申請上司題額曰宦門冰節
 張氏通判白麒繼室大同前衛生員張鳴鶴女夫歿
 祭塋成禮飲毒而死通庠黨杰等舉之因失城未上
 楊氏通判杜一岸妻岸卒後立嗣修塋建坊有賢名
 黨氏主簿路從度妻舉人黨田女樵薪課子盡教肅
 影八年失城俱罵賊而死

扈九高妻袁氏路仕季妻韓氏馬御妻任氏馬律妻
 惠氏貢生王之楫妻張氏郭現妻柳氏石韓妻廉氏
 俱以完節著聞

按石道立曰昔黃霸治潁孝子貞婦日以衆多蓋
 民罔恒習惟上所化導民之路可不慎哉

義士 鄒鑑大賢里人正統二年歲饑出粟麥一千一
 十石用助賑濟有司奏 聞旌表

袁忠寺前里人正統三年軍士乏糧出粟八百石入
 寧夏倉有司奏 聞旌表

習玉先進里人成化乙酉歲饑同其孫璟出粟以賑

鄉里有司嘉其賢賓於鄉飲酒同其歡樂出粟以潤
 習朝用邑庠廩膳生嘉靖初廢城隍廟中有旅襯不
 歸葬者三年漸有發其棺暴其尸者朝用即邑厲壇
 之良隅掘一坎瘞之仍設奠致哀焉有瘞旅文邑人
 石道立撰

韓恭西觀里人累出粟濟萬玄孫給諫公韓一良為
 清官第一說者謂積德之報也

段廷貞時庄里人嘉靖萬曆間每遇凶荒即出粟濟
 萬縣官延請耆宿壽享九十有奇

寇九長白其里人呼為三泉里人李遷春王代里人

已上萬曆十四年各出粟數百石賑民

李守心善化里人崇禎十三年大饑斗麥千餘錢心
 以千石救民至熟不計直責償啣恩之家香火填門

按石道立曰昔溫公為劉太序購并錄劉永一以

下四人國史因之作傳陶九成輟耕錄載王義
 士等七人而七人者遂聞於天下後世吾澄諸

義士亦表表可稱焉故志之用以告采風者

戚曉夫人潘氏工部尚書潘孟舉孫潘溫女天順初

配宗室鎮國將軍公鉞生子誠瀝授輔國將軍

夫人鄭氏銅城主簿鄭照長女成化十八年配宗室

保安莊簡王次子鎮國將軍誠祿

鄭杰大賢里人天順間配宗室保安王女醴泉粟主

封贈雷清 以子恭贈交趾 鄭信 以子敬封 曹號 以子

金吾後 許貴 以子英封南 許英 任郎中以子世 石貴

衛經歷 許貴 京戶部主事 許英 昌贈奉議大夫

以子經封 鄭默 以子經封太 楊貞 以子慶封大 白晏

歷城知縣 鄭默 僕寺主簿 楊貞 倉衛經歷

以子潔封 懷 姚帥 以子卓封鴻 鄭沛 以子札累贈杜

安衛經歷 懷 姚帥 以子卓封鴻 鄭沛 以子札累贈杜

正 以子士髦封 白復初 以子麒贈 王崇教 任教授以

商 以子士髦封 白復初 以子麒贈 王崇教 任教授以

知縣 以子士髦封 白復初 以子麒贈 王崇教 任教授以

坊表進士第 為成化戊戌科 地官坊 為南京戶部郎

五馬重光 為隆慶州知州張夢輔 父子登科 為舉人

馬文魁 益振家聲 為承天府同 文重明時 為雅州知

馬馴立 益振家聲 為承天府同 文重明時 為雅州知

世科坊 為順德府通判田 龍章褒勸 為淮安府

鄉賢大夫 為叙州府同 奕世黃堂 為寶慶府通 孝

坊 一為生員李茂立 一為李表弟監生李森 節婦

一為梁孝恭妻王氏立 一為石愷妻蔡氏立 一為

李吉妻廉氏立 一為姚連妻周氏立 一為生員李

朱蓋妻 義士坊 一為鄭鑑立 一為袁忠立

呼氏立 義士坊 一為鄭鑑立 一為袁忠立

隱逸雷清字潔已淳謹好讀書元季以秀才辟辭弗

就或勸之仕則日時不可為矣未幾亂作入服其先

見處亂世遜言危行卒免於害及海內平定廼以舊

登成縣志 卷二 二十六

產讓弟徙居雒城優游卒歲無復有仕進意縣令舉
爲耆賓歲飢請於 朝發粟賑之民全活者甚衆澹
然無德色翰林侍講兼修國史吉水羅汝敬曰先生
以才見試於有元以著德見徵於 天朝以惠澤示
被於鄉之窮餓人蓋有道之士古所謂鄉先生歿可
祭於社者也後以子恭拜御史封

權星號歸菴無書不讀宗理學精律曆澹志名場督
學許孚遠將越次貢之星不欲遂石隱終身所著有
養浩心譚自製角巾三方耻法三才時呼爲三稜子
僑寓唐鄭雲達爲衛尉時嘗寓此爲邑令鄭楚相書

德政碑有斷碑在魏鄭公

宋呂大忠字晉伯弟大臨字與叔嘉祐間因汲公爲
令相與至縣同尋春隱谷酌隋公泉題名石壁

仙釋東晉佛圖澄西域人本姓帛氏少出家清貞務
學能役使鬼神晉永嘉四年入中國息於澄城其左
乳旁有一孔通徹腹內常塞以絮至夜欲誦經則拔
絮一室洞明或至水邊引腸洗之還舊納入今縣有
洗腸泉

唐高相成在縣東十里廟墓古柏俱存惟碑爲敬
亭磨泐按玉格篇言柏成是仙又按魏夫人傳昔有

再酣靈液而叩棺一服刀圭而尸爛鹿皮公吞玉華而流虫出戶賈季子咽金液而臭聞百里黃帝火丸昇于荆山尚有喬嶺之墓李玉服雲散以潛昇猶頭足異處墨狄飲虹丹以投水甯生服石腦而赴火務光剪薙以入清冷之泉柏成納氣而胃腸三腐宋李道謙字受之號海客子澄城人世業詩書精醫學苦留心於素難宋帝定庚寅兵革之後年及知命穎悟全真禮寂照之玄法身入為師舍俗出家於縣西三娘子川愛其山水清幽築庵以居自扁曰白雲觀取陳希夷一片野心已以白雲留在之義日施藥

濟人夫方咸頹夏生所謂棄名利而甘肥遁者與

接石道立曰蟬脫羽化涉於誕空門覺路流於無

仙釋非吾儒所可道也其何以志君子曰觀煉

術而得守氣之資觀戒律而得疑心之理矧高

全冒人逸士托而逝焉者有之君子觀此可以慎術

矣

遺事後秦姚萇遣姚碩德鎮李閏魏褐飛自稱衝天

王率氏胡數萬人攻杏城雷惡地應之攻鎮東姚漢

得於李閏萇曰惡地多智若得杏城李閏據之長安

東北非復吾有萇親引軍擊降

唐廣德中黨項羗爾寇同州戰澄城郭子儀敗之

明正德七年十一月維川妖賊邵進祿等入犯由黃

龍山據白水彭衙寨四掠潼關衛指揮張潛關健自

戶王珍與戰死之兵使者張翰自澄城率衆擊走天

崇禎間流賊數萬自延安來攻縣城韓郅營副將張

全昌大破之闔縣士民立石記績舉人王拱辰撰文

崇禎九年流賊圍城危在頃刻總兵曹變蛟襲擊勦

滅之萬民咏戴

雜志

陶枕大賢里鄭某嘉靖間於親隣寨中掘得一陶枕

制頗工緻中央有刻云天聽寂無音蒼蒼何處尋非

高亦非遠都只在人心兩旁對刻云賣酒樓頭風颭

颭織綾梭畔雨瀟瀟不知何謂莫考其白吟則康節

筆也

雲谷詩話

又鬼嘉靖庚寅夏玉泉子向生惡瘡數日瘡且腫潰

亂如崇忽自誦日鬼火三更夜鷓聲二月天又十埋

千古恨月照一天愁又窮猿悲夜月孤鴈唳秋風又

孤窆荒墳空夜夜琪花瑤草自年年悽惋之詞誦不

絕口家人不能悉記俄而索水或以梳水與之一吸

而盡又大聲誦日飲瀑布之清列迴膏肓之沉痾已

卽瞑目而臥須臾瘡腫消而甦矣詢以前事余茫然莫知也辛卯夏六月罹內子之變識其日正誦詩時也人以爲鼓盆之讖

孫嘉士負時名勅斷家務閉戶讀書夜半忽聞人語云天有五星今晦明不一地有五岳今高卑不齊草木兮天喬鳥獸兮走飛人生造化兮一定而不可移開戶視之惟有山谷沈淒涼風嚮谷而已知其神告我也遂以義命自安

夙慧杜冕五歲不能言嘗憫母飼雞一旦忽發聲曰牖下雞啖糟糠不能振翅鳴朝陽亦當鼓翼上扶桑

盡異天啟丙寅路從廣任臨清州倅嘗于關帝廟壁間畫虎崇禎間道士諷經至夜三鼓時見虎雙眸炯然從壁而下抖擻跳躍若將及人道士錯愕不知所措急取劖令格之頭岑岑已不甦矣遲明訝其事州人觀者如堵迄今清源人臨摹其圖競貴售之

妖沴嘉靖初縣治前一民家婦月辰就禱產一物其狀如人頭口耳俱無惟有十數目叢頂上張瞋不時殆人妖乎

崇禎甲戌年虎時常下山狼夜夜入城城西南隅羣鬼夜哭或在牆陰或在樹杪至乙亥秋混天星破城

癸未年四鄉堡寨刀鎗之上俱見火光嘗有婦人產
旱魃者皆兵荒類此之兆也

按石道立日子不語怪固矣志鬼志妖何也蓋事

有弗經道或詭常通幽明之故窮時事之變君

子謂之博物矧街談巷議稗官有錄而齊諧燕

說又君子所不廢也

闕疑志傳信之書也孔子稱史闕文貴信焉耳舊謂

吾澄進上唐有姜以度宋有劉處約孟吉元有羅知

微又謂趙家河有孟尚書墓我井村有羅尚書墓羅

家原有羅元帥墓今未考的姑闕之

唐阿那寺有碑係開秘書乃一名筆也疑在縣南阿

難寨

舊謂高柏成正直之賢無事實可據今以西陽雜俎

古豔異編攷之皆作列仙姑從之

伏龍廟按括地志在馮翊縣西北四十里今割入徵

漢時穿渠得龍骨遂立祠舊志疑誤

史記同州澄城縣有九龍廟相傳為馮贏王之女也

夏縣司馬才仲戲題云身既事才主女亦妃九龍才

仲名極與兄樸皆温公姪孫有名當時附紀

舊謂唐魏扶知禮闈入院所題梧桐葉落之詩榜出

無名子削為五言詩以譏之附紀
正訛志考數貴精舊謂驥馴赤縣南避難堡人樊噲
縣西雷家河人蓋文達縣北蓋家家人裴垣亦作澄
城人今按一統志雍大記諸書馴赤秦州人噲沛人
文達冀州人陝西通志亦載文達為澄人蓋據本縣
彼時志草之誤垣聞喜人又謂白起墓在武安村樊
噲墓在雷家河魏徵墓在大賢村按一統志起墓在
杜郵亭噲墓在樊川魏徵陪葬昭陵又謂佛圖澄墓
在文廟下按神僧傳澄卒於鄴宮寺寔於臨潼西紫
柏舊說訛誤今正之

藝文志

詔諭

唐

貞元十年閏八月十七日

詔諭銘紀右馮翊澄城令鄭楚相功德見本志陳京撰記

金

明昌四年設宏詞科

詔諭試諸進士及第者出澄城縣師節為題中選第一郭徽試卷見後

明

嘉靖二十六年七月麻林被山移都御史謝蘭

奏聞奉

聖諭朕仰荷上天眷佑近復蒙此乍變之警卿等宜加修省竹宣示前官各務修舉實效務期盡效以副朕意

崇禎元年七月初七日奉

聖旨朕覽第一良所奏大破債而忠鯁可嘉該部即與破務起細無難有位本內勸諭之尤的限五日後指名奏奏以憑處分該

奏疏員六十平問八員十子日

後魏

建言改京西二州五郡陸運畧

薛欽

計京西水次汾華二州相農河北河東止平平陽五

做費公損私畧計華州一車官酬絹八疋三丈九尺別有私雇價布六十疋餘州郡可推若一車取雇絹三疋市材造船一舟舉十三車合有三十九疋并匠作雜用俱足計一船剩絹七十八疋布七百八十疋又租車造船一艘計舉七百石準其雇價應有一千四百疋今取布三百疋造一船并船上雜事一船剩布一千一百疋華州去河不滿六十依舊酬價車送一船所船之所運唯達雷陂其陸路從雷陂至倉庫前一車雇絹一疋租一車布五疋則與公私便詔從之所省不貲

唐

諫太宗十思疏

魏徵

臣聞求木之長者必固其根本欲流之遠者必浚其泉源思國之安者必積其德義源不深而望流之遠根不固而求木之長德不厚而思國之安臣雖下愚知其不可而況於明哲乎人君當神器之重居域中之大不念居安思危戒奢以儉斯亦伐根以求木茂塞源而欲流長也凡昔元首承天景命善始者實繁

克終者蓋寡豈取之易守之難乎蓋在殷憂必竭誠
 以待下既得志則縱情以傲物竭誠則胡越為一體
 傲物則骨肉為行路雖董之以嚴刑振之以威怒終
 苟免而不懷仁親恭而不心服怨不在大可畏唯人
 載舟覆舟所宜深慎誠能見可欲則思知足以自戒
 將有作則思知止以安人念高危則思謙冲而自牧
 懼滿盈則思江海下百川樂盤遊則思三驩以為度
 憂懈怠則思慎始而敬終慮壅蔽則思虛心以納下
 懼諛邪則思正身以黜惡恩所加則思無因喜以謬
 賞罰所及則思無以怒而濫刑德此十思弘茲九得
 簡能而任之擇善而從之則智者盡其謀勇者竭其
 力仁者播其惠信者効其忠文武並用垂拱而治何
 必勞神苦思代
 百司之職後哉

明

初入諫垣疏畧

戶科給事中韓一良

臣聞邸報見 皇上平臺召對時有文官不愛錢一
 語大哉王言學治平之要矣試問今之世局何處非

愛錢之地今之世人何官非愛錢之人 皇上亦知
 文官不得不得愛錢乎何者彼原以錢進文得不得以錢
 償據臣所風聞一督撫也非五六千金不得道府之
 美缺非二三千金不得以州縣并作領之求缺各
 有定價貢監及吏承之優選俱以賄成而吏部之始
 進可推也至科道兩衙門亦半以此道得之館選亦
 然臣之風聞如此臣起家縣官而今居言路如以兩
 官言之則知縣為行賄之首而給事中為納賄之魁
 諸臣言盡民者俱歸罪於守令之不廉然守令亦烏
 得廉州縣之俸薪幾何而上司可行票兩提或餽送
 不日無礙官銀則曰未登紙贖衝途也往動有書帖
 多者十兩以上少者十兩以下欲結心知者不在此
 例一年之所過不知幾多至巡撫撫彈壓一方巡按代
 天巡符一經存刻每謝金一百兩旁書五十一兩其大
 例也而近且浮於例遇考滿期觀有費至一二千三
 四千金者夫此銀數從天降乎從地出乎而欲守令
 之廉而不自愛錢乎至於科道人雖為抹布解曰只要
 他人兩月不替自巳汗臣惡此名柰不愛錢而錢至矣
 據臣兩月內辭卻書帕計五百有餘金以臣絕無交
 際之人而有此餘可知矣此猶為有名之觀而臣則
 登成孫志 卷二 三

懼其以... 皇上之言路為赫人之... 皇上不... 錢之旨... 隱之旨... 語不願... 為德節... 砥臣節... 代臣節... 諸臣節... 錢為汙... 之世界... 改而禍... 未敢深... 申文...

明... 創修名宦鄉賢一祠申文畧... 邑令徐效賢...

賢... 聖明新典入神名... 疲縣僻處山... 祠則墻院... 罪不容... 舊有坑... 一殿東... 處生理... 五十兩... 廢缺等... 將前地... 廢缺壇... 查議名宦鄉賢牒文畧... 徐效賢

看... 查... 特... 可... 宜... 登... 卷... 三...

是縣有無窮之聞無或... 查議不明有非盛典... 遷武安王告文二通

遷武安王告文二通

邑令敖佐

遷豫告文惟神惟才正氣鎮一時之擾擾威靈神爽... 關萬古而洋洋必嚴廟貌之修斯稱明禮之義願茲... 縣治舊有神祠人神相雜豈陰道之尚靜鞭朴日擾... 非真禮之攸宜佐忝屬守土之臣愈切驚惶之念圖... 福地於父老得廢廟於城中殿宇巍峩門墉高廣工... 材傷而人不告勞輸與新而神若陰助奉遷神像後... 此良辰俱奮錘之上干修牲禮而虔告禮因義起事... 非妄為伏乞明神舍舊即新不鄙以增祠是而後碧... 瓦朱甍壯千載英雄之氣青天白日素一... 生忠義之心神人既寧幽明斯正謹告... 安像告文神無定危惟靜斯安神無常享惟誠斯格... 告即此開宮奉安故像率人謀之既協協量神心之少... 慈鳴呼爵三斷兮禮成衆竦息兮屏營新廟奕奕兮... 王之庭雲旗前導兮蕭蕭鳴鶴赤苞之如龍兮振金... 夫之野錫神赫赫而虞止兮氣凜凜其猶生願野疫... 今陰兵異誅戮今神能護萬載之疆國兮庶民吏於

休寧 謹告

國朝

申除荒糧文

邑令姚欽明

澄城縣為豁荒徵熟寓撫字於催科蠲亡後存借招... 揀為保障事紹得澄邑節權寇兵疊值旱澇致令城... 內居民僅有六家總計人口未滿二十併使郊外閭... 閭強半殘垣敗壘野中地土竟多萊壤荒丘早職受... 事方新事事掣肘查得田產之荒蕪起於地廣民稀... 斯民之流亡由於賦煩多盜招盜之故有四蓋本縣... 南薄同朝西交蒲白北與宜洛為隣凡二百餘里一... 百里外中隔龍山便屬隔府東與韓印接壤僅四十... 餘里八十里之外東渡黃河便屬異省黃龍一山綿... 延東北凡數百餘里實為連延蕪不獨登之禁獨與... 諸縣無告之民錯趾蜂屯併延安之流離晉地不武... 之徒攘臂蟻聚此多盜之一故也各邑貧民俱荒糧... 之株累絕丁之嫁禍迺避催比一遇群盜繫維入醫... 此多盜之二故也有群盜流劫被擄難民無計逃回... 登戎系志 卷二 三十一

勢成騎虎者此多盜之三故也一人入盜累及一家
 一家入盜累及一甲苟被讐人告發便奉明文招提
 防兵鄉勇遂以獲賊為功不問逃回之難民脅從之
 破擄均指為賊乘機捕捉強詞吞應則立膏鋒鏑
 首就擒則又淹囹圄以致難民不敢逃回隣佑併驚
 逃竄此多盜之四故也拋荒之故有五戶敗丁絕無
 人佃作者此必然之拋荒也或兄弟故絕錢糧莫辦
 此不得已之拋荒也或兄弟故絕錢糧莫辦或從前
 流離舊逋未蠲思欲開墾恐添糧累此不得不然之
 拋荒也或繫累於強寇或轉徙於他鄉思歸故里以
 復生業恐索舊逋併提前案此無可奈何之拋荒也
 或兄弟被擄或親戚逃避承佃無人之產恐迫原主
 之人此不敢承種之拋荒也嗟而疾苦衰此迫原主
 但粮草不敷者恨產業之為累併有徭役無措者痛
 皮骨之僅存風鶴之聲嘆既日驚之塗炭之中胥役
 之追呼復時促之水火之際牧民者乏如傷如保之
 仁為下者多益深益熱之嘆蕭條滿目凄楚傷心合
 無懇乞 大開湯網弘沛堯仁體 天地好生之德
 朝廷不忍之心俯准從前之荒地絕丁粮差盡行

免從前之挾從被擄男罪責悉與宥寬雖被告發亦誘
 以自新之路即奉招提併開其悔過之門一切疏件
 悉准註銷微但不辰之象望樂境以歸來併使多基
 之徒均洗心而向化微但本地之逋逃各安其業併
 使他鄉之流亡願耕於野則地方幸甚斯民幸甚惟復別蒙
 國課葭有土之財矣地方幸甚斯民幸甚惟復別蒙
 定奪早職未敢擅便伏候 憲裁倘甲職言有可採
 幸蒙 俞允併乞 給示以便播揚為此 伏祈
 理合具申伏乞 聖 批詳施行
 山陝總督部院上 批據詳八宗鑿鑿可行非如傷
 如保者不能洞悉也總之荒復免而百姓樂業盜風
 自息矣仰善為撫字候 內部蠲免示下會各部院
 領發曉諭繳 批蠲荒之 旨近聞且晚下矣且
 陝西都察院黃 批蠲荒之 旨近聞且晚下矣且
 姑候繳 批據申可謂有透病根至諸蠲荒亡
 巡按陝西劉 批據申可謂有透病根至諸蠲荒亡
 委屬可符但未知向來奉文查勘 撫院咨部何如
 酌議耳布政司查報散脅宥從屢奉 明綸飭令該
 縣查明號件申銷可也 批致盜四故可謂洞悉小民疾苦
 西安府推官王 批致盜四故可謂洞悉小民疾苦
 登成縣志 卷二 三十一

第肆款更確拋荒五故可謂詳察平民隱痛賈長沙
所謂可為痛哭流涕者政此類也該縣留心地方干
此已規過半仰候各上司詳示行繳
學道呂批登邑夙稱凋殘該縣實心整理具見才
猷仰候各批部院詳行繳
部院詳行繳批據申深見該縣撫恤裁黎之念候各
陝西驛傳道王批閱詳縷悉多盜拋荒之故剴切
詳盡足徵留心民瘼者各上臺見之必且動念作見
竟恤之令旦夕下矣仰候部院詳行繳
明 箴銘

縣堂八銘

兵部尚書朝邑韓邦奇撰

任以行義實聖表裏象恭言偽是之且欺金石凜烈
殫力矢心體國猶家不有其身右忠銘
當官三事精勵宜先荒墮厥謀敗迺事焉自強不息
夙夜匪懈無逆作所脫簪是戒右勤銘

緣欲敗度甘節真亨惟出有經其用不窮儉以律俗
擯止無益計食糲事四方作式右節銘
人有赤子異形同氣孰謂百姓爾我不類顛連焚獨
莫予之弃視民如傷心乎愛矣右愛銘
志士表表神明時對無口四知不欲何累苞苴無門
死然封識白日青天風高百世右清銘
不鑿以智不先以意廓然大公中道而立剛毅不吐
柔訥不茹無偏無僻居正以處右正銘
日火燭絜惟光斯瑩炫明自用豐蒞其形疑深則或
察瑣生麤彼昏不知遺奸友多右明銘
禮戒猶豫書貴果斷風裁成幾無為友汗蓄火炭塵
積疑生難利器盤根頽末直見右斷銘

唐 碑記

唐 縣令鄭公德政碑

縣令鄭公德政碑

集賢殿學士陳京撰

在昔兩漢之政咸勤東京之事最明共理邠邑必難
守宰不獨孝官二千石之選也我國家弘啟至化

對前謨類縣材自邇敷遠實先三輔載首蜀城恒
 寧厥人多及於理不有卓異曷矚頌歌未通神明誰
 鏤金石由是貞元十一年秋閏八月十七日辛巳詔
 諭銘紀左馮翊澄城令鄭楚知功德於其理所之南
 門也澄人謂余方從郎謬跡書賦鮑循吏之事業於
 采詩之風謹求成其文真美公馬公守叔教鄭州榮
 陽人高祖元胄皇朝散大夫祠部郎中曾祖慈力皇
 朝議大夫蔡州刺史和敬實梓州通泉丞烈考現冀
 州南宮尉累葉盛德成德能賢慶遺後人蔚變才子
 既冠試吏逢時憂遷及壯左州遇守方缺拾紫大綬
 假以兩輔名盈利權道嚴曠貴念代辨之不以失巨
 郡之舊儀遂以幅巾著生修刻先進醇粹流藁馨香
 立言德成敢旌籍委用卑科秀才第東觀使書郎勞
 以彌年秩滿從調判及珠授長安尉而子年安緱氏
 邑也致理大端本人和氣孝崇悃頓心通性草當同
 財而離君驟嚴星而周氣用簡成賦由年頌後論閱
 廢積滄蕩俠愛仰縣衡以自告偶踐更順和報以登入
 桑桑皇蕃多務讓隣終故并力從順和報以登入
 合禮而而息復井列河可谷及皮順和報以登入

半道城濼深厚清利遠邇會爐之義華周八家亦第
 之養勞行則序藝疏屢豐恒

鴻細三勤夙暮載考厚藏不之禮術赫赫之名成

枯泉由靈而正出驚蟲抱義而夫去此又感會玄味

之疾苦降服馬於鄉亭此又願懷德微之可稱者也

之疾苦降服馬於鄉亭此又願懷德微之可稱者也

風清雲明鷄犬攸聞火煙閭境表率王旬圖籙連城

其君子理道之至歟是皆根於研心特擅端操無倫

先時剗戕中歲克賦疾如影響利朋卷舒擗詞則宜

章練政則居最俄函詔除褒者遂冠文有之其猶

于康大傳伯師尚書之徵于馮翊君慎寵乃纂

言于獻狀詢續以仁掾於是百姓孫士良等報德

明請命朝省而斯頌作焉詞田澄有賢公今更定

父文雅揚班兮學齊魯執業操刃兮造漸海更定

戶今調舊宇家多金井兮漫畦圃野藉膏苗兮更定

路崔巍靡泐兮偉終古貞元廿四年正月廿五日

劫倉戶尉廳壁記

杜牧撰

縣之所重其舉秀貢貴也今日外諸候之備者
 不能得一人也至商頰下鑿井深者至四計餘丈即此
 地也徵者俗能為溢耳其地皆無然四望失是適其
 苗則大獲天或旬而不在其地則無然四望失是適其
 年多薄給復絕絳麻藍果之民則無然四望失是適其
 民戶高下相差絳麻藍果之民則無然四望失是適其
 徵其來田者老成曰然西四里即叢期表富室大因
 東西軍翁坊龍取扶公為首錄以一括十民之徒第當上
 下戶互來進取杖公為首錄以一括十民之徒第當上
 春歲時不取杖公為首錄以一括十民之徒第當上
 往往擊辱而去長吏固不致校復凡其不民之徒第當上
 耶加以街女官多盤穴其間迺相占附比無有為也
 足自丞相御史咸不能與之角遂縣令固無有為也
 非豪吏真工聯經相姻戚也率解去是以縣賦益通
 徵民幸脫此苦者蓋以西有通湖巨壑以牙交吞小
 山前徑馳鞭馬張機置者不便於此是以以地跡不到

而行之有尺寸之害民者率有尺寸之刑今此咸墮
 地不起反使民以山之澗壑自為坊限可不悲哉使
 民恃險而不恃法則劃土者宜乎指山壁侯傳言者覽
 矣燕趙之盜復何可多怪乎書其西壁侯傳言者覽
 焉

昔漢制長安城川置四部尉掌捕盜賊至隋唐郡縣
 各置尉一員俾分判民務則尉職之設也其從來遠
 登成縣志 卷二 四十一

矣我國家城邑星分其布雖極要荒之民使一視
同仁則共為縣邑親民之職者不獨責成於長貳惟
尉亦然然其間尉之稱職揚名者豈其鮮也豈其皆
長貳之能而不顯尉之能耶若然則譽著於南昌威
宣于比部惠歸於武陟文絕於鄆縣僕射以言大見
及民者皆可紀也竊惟漢唐之有天下年世不得
謂之遠城邑不謂之廣而尉之見稱於當時者
名於後世者僅此數人亦不過有一能耳古謂才難
不其然乎昔乃有古人之遺風得今人之全美則我
昭信趙公之於澄城也公諱規字君摸中都安次人
也其先累葉積德皆稱賢明語其品秩則兼萬石之
崇較其門閭則冠五侯之甲慶遺後裔繼出偉人公
少好學問博通經史工草隸善詞章精神明秀風度
其特立英果之氣蓋出天資遠大自期志為時用既
以蔭補內祗出職於前年冬奉命來尉是縣視事
之日首引滯訟聽詞察色悉得其情約一時頃央責
盡人服其精敏乘間則出所貯召耆老而告之曰
莫大於農要農之務唯勤是先闢土墾壤

寒耕暑耘勉力田然後困庾實而衣食足古人謂
勤則敏益一鍾不勤損亦知之天之報施戒裂因人
以為限假令量入以為出又有嫁娶賓客疾病死葬
人所不免者用度又不貲奈何耽酒縱飲傳奕自供
一日之歡共貽數口之憂墮農已甚難定典刑皆謝
曰仁人之言其利溥哉敢不拜賜比來雨暘不時飢
饉薦臻家無儋石之儲人起流離之嘆公乃集士民
款諭之曰天災流行觸地則皆然苟去此而取彼跋
涉險阻慘悽籬籬之下祗自苦耳何補於事竊嘗計
之富家多殘剝聚斂以與怨貧民日削月朘多不粒
食興怨則招憂不粒食則群起而自救盜賊之生發
於肘腋可不畏耶且天道惡盈而好謙人知損有餘
而補不足時乃天道當其物成收斂執券契以責其
所有如探囊中物是謂以新易陳又舉倍稱之息得
飲散之權成相養之道也計無便於此者有司將不
疲而力役矣不怖而徵呼矣不督而逋懸宿負矣人
知復有生生意皆羅拜曰生我者父母也今蒙一言活
我於漂泊垂亡之中猶父母也忍棄樂出而避父母
乎將何所向而入矣其為工匠當應遠後有不能自
給者則出已財以津遣有婆婦者始從衆轉徙流寓

他鄉寂寂無音問者已四星紀及歸省其瑩墓但見平
 田曠野不復瓏樹則告於有司有司殊不加恤雖遣
 官屢詰其所終不得實其婦孤貧恨無以雪額天而
 已抱屈累年幸公清直明敏婦復伸訴公覽之得其
 冤狀下令期於所爭地引數騎直抵其處其老婦亦
 迷亡其丘塚之所在公乃取山川之形狀以其可築
 地命丞徒運畚鍤出土壤約一丈二尺廣狹倍之因
 得其宅兆田主叩頭伏罪流血公命博丘塚植樹林
 周以垣墻而貸遺之橫山賊有號渠魁者父為人患
 公曰賊寇為人之患不為不大良善遭寇之侵不為
 不苦當力掃除以安良民於是分布弓兵潛匿於林
 谷間出不意抵其巢穴一舉生擒之長徽係頸誑還
 以獻俘自是黨與散去境內晏然余丁美卒觀觀
 以肆毒螫者皆發摘而無餘豪宗俠族之家畏威而
 莫敢犯舞文弄法之吏率皆不能欺為之屏息以至
 公府不時之速務非理強明之譴問人皆戰汗不知
 所措公獨從容以辯以別卒歸諸正非胥中所養至
 大至剛者孰能如此哉公面目嚴冷未嘗以色假人
 之儼然若神明然言語落落皆可法剛危便騎射

武力絕人人信其明禮樂而敦詩書比之卻轂者可
 屏之將師非虛語也凡聽訟必盡兩辭徐以理察之
 如得其情則以本法人無怨言奸民滑吏皆斂手
 避之事事無不盡心已誤觸憲網者往往矜閱責以改行
 自新以故不虐每歲冬月軍人以戎馬牧於郊
 野有死者則強抑地分以均陪氏恒患之官
 司生民而不敢道至公即不然乃慨然曰不惟侵掠
 我元元今歲冬早宿麥半死若縱令牧放則甚傷
 農計其失則國計何自而出乎因下令嚴行禁
 約多為文憲之主者其寨主雖粗暴武人聞風而服
 公之剛正乃戒其軍曰真賢尉也不可犯之自是牧
 馬不敢侵境民絕其害父老奉奉稱頌德美奔告於
 下走云勸課農桑使敏於樹藝安集疲氓使免於流
 亡明足以察奸慝義足以恤貧乏威足以懼強梁勇
 足以破梟賊禁斷浮下之日則除逐波之名杜塞請
 託之門阻絕奸邪之路行大計而衆善萃於躬於是
 萬口一辭而告之曰吾儕小人雖口頌而心記恐不
 足以傳子孫况熱然乎願此公之像紀功金石以傳
 不朽公既聞正色謙之曰念公之謙淺薄為一尉職
 况遇連年旱暵民幾失業蓋有所失其過非鮮安
 登成縣志

敢將此政治以傳承久乎誠非善實為長惡即榜

也知而不傳不仁也也何周公承也而不知不智

者何用以則春秋聖人之由也善惡在焉竊嘗

信美兮叢瑾瑜慕藎無虞威行草木兮肅方

結禱禱歡呼溢路兮歌起老農兮弱與沮墾

年寬忿兮一且據實冥腐歎德臆出嗟連冠

亦莞軒然一笑兮粹以俗兮易成不磨磨

草芥瓦礫間得四段合而摸錄殊多闕字故失姓氏

亦莞軒然一笑兮粹以俗兮易成不磨磨

草芥瓦礫間得四段合而摸錄殊多闕字故失姓氏

主簿李公去思碑 進士韓奕王山甫撰

昔東西兩京垂四百年守令號為循吏者不為不多

然其卓然著見於後世者惟龔黃卓魯數人斯蓋被

天子命典城牧民禁奸舉善興學功農而一出於已

故能成名然而由縣佐得聲者止一仇香豈非權在

已者易為功事因人者難為力哉否則何其得聲之

難也如此自魏晉而降逮及本朝而能度越仇香者

即吾奉訓李公其人也公諱完字道全朔州馬邑人

也性識穎悟日記千言甫八歲中神童科總角隸進

士既冠調石州司候正直剛毅不畏強禦石守王夢

徵每憚伏馬後授澄城主簿下車之後振舉頽風革

易前弊先是縣民豪族大姓通行賄賂趨媚縣僚貧

民無所控訴公論之以仁明教之以正理使人革心

不敢欺詐雖被刑責莫不服其辜由是上恬下熙則

用殷富乃興建學校崇尚儒雅時縣學獨一宣聖殿

公增大其規廟廡堂齋煥然一新平居撫民以恩使

民以信德政薰濃散為和氣之浹洽自是風淳俗厚

政簡訟稀日與士大夫飲酒賦詩以萬戶之繁劇治
 之猶一家然大定癸卯春朝廷遣使察丞簿中有政
 迹者擢縣令公奉勅改授忻州定襄令既去闔縣士
 民劉玠等各出家貲立祠南門之外樹碑紀實以示
 去思之意命僕為文因採民聲以歌之歌曰彼美古
 徵兮丹延之井邑萬戶兮勤于務農時有強暴兮
 恃財之豐趙媼官僚兮賄賂通宗來佐是邑兮協民于中
 抑強扶弱兮請謁不通化惡為善兮一人皆檢躬星士
 訪問兮誰或蔽蒙歌咏德政兮萬口一同茂實燕聲
 兮達于天聰聖書嘉勉兮百里是封舍我云邁兮指
 河之東民懷去思兮將安用情伐石紀德兮不渝始
 定二十三年閏十一月晦日立石

重修岱嶽廟記

邑人宗有 缺撰

粵若大極分而為兩儀兩儀立而生六子本乎天者
 親上日月星辰麗焉本乎地者親下山川河岳奠焉
 其類既分各從祀典於是咸在夫東考造化之所起
 而巖者神靈之所宅生乎震位為五方象帝之先

曰岱宗乃萬物更代之處距乾地之雄勝亘魯邦之
 所唐太皞領其權勾芒司其令厥德配地於時為春
 通狩者止焉而考功德志道者登焉而小天下有
 不可誣也故日月所照霜露所墜之城凡有所以載
 秉彛好德之倫莫不崇務廟像歲時祀之所以戴
 天齊之作日來之佑也同州澄城縣襟商顏帶漆
 沮控上秦走蒲坂爰當要路是為劇邑於稽古迹則
 有隋文帝魏玄野成之舊莊驗以澤民則有鄭楚相
 大防之遺愛沃野四闢居民萬室教徵家給人
 足祀廟之奉詐可闕焉古徵之封有岱嶽廟自戎馬
 生郊之後暨震風凌雨之餘歲月寢遠敝壞茲甚知
 廟道士呂君仁徽妙兩觀願言一啟以謂人者神之
 所依神者人之所事若坐視其敝而不為興起雖然
 神罔時怨奈何日鑒在茲况生乎由是死乎由是眾
 因微無咸願悅隨豈且遂與邑中耆老度其鮮原換
 之以日鳩良匠哀衆材闢宏基構廣厦經始勿亟迄
 用有成于以感崇朝編雨之雲于以肅在廟駭奔之
 衆茲見門墻山岌庭宇水縈畫棟虹橫瑤塔助截上
 通雲漢碧差萬无之鱗前直郭門清蔭兩街之撼震
 登戎係志 卷二 四十四

升氣接河汾遠日出冷連條華高聿成壯麗之觀是
 日嘉寧之殿一到則俯仰於淨境之中道遙遙於塵網
 之外香火之綠自起名利之心遽盡又何必大寓言
 之叟謂可並秋毫小遊說之士謂不勤求為紀述愚即
 既成弟子王抱一以其師營造之勤求為紀述愚即
 隨其森然如絕澗之松湛然如清溪之水義羽士之
 儀範為教門之領袖即此勝緣諒非矯舉因毛元說
 以塞所請使雲齋道侶神遊長揖稷丘公鄉校
 儒景仰更新韓吏部大定二十七年歲次丁未唯
 乙巳臘越四日戊申鄉貢進士宗有記

艾公改修魏鄭公祠記 同州教授孫鎮撰

有不世之君必能用不世之臣用不世之臣必能建
 不世之功若鄭國文貞公其可謂不世之臣歟公以
 不世之臣而遇太宗不世之君真千載之嘉會也夫
 值千載一遇之世將行千載一隆之道豈但期會簿
 書聽訟獄而已哉公亦自以為不世之遇而能展盡
 底蘊無所隱太宗和顏從之如不及是以貞觀開斗
 粟三錢外戶不闔兵寢刑措度幾唐虞之隆嘉謀規
 益稟稟手阜契夔稷伊望之風也公姓魏名徵字元

成本魏州曲城人新舊二史載其致君澤民行事炳
 炳如丹固不待吾言而後見也其祠舊在縣之西門
 外始惟繪像縣學門廡東壁逮宋宣和間縣令張綱
 別立祠堂塑為貌像馬歲月滋久堂宇頽圯神像剝
 缺加之其地荒僻殆不堪忠臣賢輔所居吁可怪嘆
 今主上踐祚之明年勅修天下忠臣義士廟宇有司
 以公祠聞於朝然久不時報縣令艾侯憫其荒廢乃
 割卜地建廟築垣於南郊外三十餘步輸已俸以遷
 焉於是公之孫與闔境士民贊助而成之不勞民不
 費財經始於十月斷手於十二月其堂三間五架中
 塑公像及其孫暮秉笏侍立於左東西廊廡一十間
 各二架廟門一所使歲時祠謁者如事其生公之在
 唐先有賜庄在縣北曰修善村其子孫家焉因命鎮
 曰良輔驛曰賢相皆以公故也公之家世蒙給復下
 逮五季宋初亦然及韓魏王琦西帥也奏於官其十
 五世孫道嚴至大觀政和間賜銀六百兩絹五十端
 以彰賢臣之後本朝定國軍節度使傳申諸朝亦
 贈其十七世孫世祥嗣守其先塋蓋令德之後也因
 其紀其實以告其將來不惟使後之繼業者不墜其
 家聲抑將使為人臣者以道事君措天下如貞觀之

治顧不備歟侯字長卿晏宰劇邑所在有治聲澄人
畏而愛之其德政茲不悉載異時秩滿代去縣人猶
此祠為甘棠之芟舍云承安三祀冬十月
二月晦日將仕郎同州教授孫鎮撰

艾公遺愛碑

孫鎮撰

郡守縣令民之師帥守非人則千里之民受其弊令
非人則百里之民罹其殃由斯言之今之縣古百里
之國今之令古百里國之諸侯屬當是任顧不重哉
同州澄城縣漢唐三輔之屬邑土沃而民殷事叢而
業鉅自古號為難治本朝以武德定天下遼東其人
悍自古號為難治本朝以武德定天下遼東其人
是邑者往往皆碩德備器承安二禩夏六月前縣令
艾侯膺命來蒞是任爰自下車公勤于職寬而能
嚴而不苛申明條約檢束胥吏待僚屬以禮馭下民
以信修固城隍明置里堦不閤月洽績告成於是興
增舉廢修葺學校治齋舍擇里中賢子弟教育作
以有規式縣之西郭舊有唐相魏鄭國文貞公祠
其像毀裂裂裂侯以謂前代諫臣無能出其

者而民心所欲而遷焉是年之冬天子遣信使大比
天下戶籍邑中里胥迫于限促其間不勝差互侯以
新舊籍參校租稅丁黃一皆剛定人服其公平無敢
誹者自侯到任之後每風雨愆期以香火詣佛圖澄
洗腸泉默為民禱雖左右莫知也既而三年而亦無
獲感應是致闔境之內不旱暵者三年而亦無風雷
之災前主簿馬內亨甫業已受代而遽告逝遺孤女
六人皆長成而未聘也一孫雖甫及成人而未娶侯
哀其孤貧皆為擇良配而婚之其娶得釋重累而還
于鄉里百姓隨之以為復見古人馬往來客宦有貧
之不能自振者皆為之調濟其輕財重義好施以周
人之急難如此及其秩滿而歸也民惜其去遮馬首
于路而不得行至有涕之無從者其既去也百姓蘇
若仁等思其遺愛皆以為古之循吏有去思者有生
為立祠者自今觀之我侯何愧焉於是共為置祠于
文貞公廟之東使邑人春秋瞻拜而奉之侯大興人
之任積官今為定遠大將軍嗚呼侯之于僕有三十
年之舊知其為人最能得其詳及于來官馮翊嘗詢
登成縣志 卷二 四十五

其政跡而稱不容口於是據其善狀喜而書
之于石以告來者永安四年十月望日立石

縣丞樂公遺愛碑

邑人喬缺撰

自古張官置吏職思親民尤關承宣之重者莫要於
丞也侯名韶字九成世居江西臨川擢才異授是
邑丞去歲夏六月署事慨然有願縣治曩時徒於
親隣寨以奔走服役受制於時將請都督府躬稟命
復故治解宇塵居尋就規繩官民兩便而無擾前編
復蘇賦煩重逃亡者多侯招來耕墾安業自是疲
境內晏然無狗偷鼠竊之警至於吏胥輩各能餒
奉公罔或貪惰故庶務辨集視隣邑為首稱其
力高下衆寡不同仍品咎等第科坐民無咨怨特
有過軍於合備廩外或妄有需求執論拒止民無
交費之苦敬謁廟學增修摧圮延禮師儒教養後進
課月式以期人材有成頃遇亢旱副俸齋香

諸神誠意感通如期而甘澍沾足及朔望必率集庠
校儒士泊耆宿輩講經論史讀律俾人知趨善遠罪
之方日必鷄鳴冠帶詣公視事政務叢瑣必躬加割
裁若挈裘領處之靡不適當嗚呼侯之政蹟彰彰若
此其賢於人遠甚民方感慕仰觀政成丁母喪而歸
翌日耆老趙達等謁予因請為文紀諸石謹據所言
如述梗槩銘曰侯方下車惠政寬徐思撫匪離田墾
荒蕪農修食足學興才育均賦平徭訟簡刑清邦憲
宣明人知遵行姦伏糾擿物無遁情善敦福慶惠推
鯨橫風移俗易塗歌里詠六事斯全父母終天泣涕
漣瀾謝職南還賢侯去矣孰繼芳軌勒銘貞珉其棠
並美洪武三年歲次庚戌十月吉日古雍前鄉進士
撰

王公重建廟學記

元進士蒲城趙寅撰

洪惟我皇明統一八表肇興文治立庠序以教育

才之本開科目以宏取才之規蓋紹隆唐虞三代于
千古也明詔誕頒四方風動自京都以逮郡縣罔
不崇廟侈學祇承德意而世道翕然丕變矣澄城為

闕輔名邑宣聖祠宇歷代增修厥制維備載諸宋金
有元之記曩因兵燹游鑿更弛於教養賢節儒緒學
就傾圮獨遺禮殿亦穿露弗支神不安安游息無從
洪武六年春知縣王秩縣丞姚宗敬王簿夏安禮暨
典史傅榮相與言曰推功尚德勵民正俗舍尊孔子
無以副 上命而殫臣職也僉謀既協差旦于穀遂
庀材用徵工役身為程督匪懈昕夕其簷棟敬撓者
起之楠棖黠敗者易之敝以宏庭亢以豐陛黼辰龔
然角席儼若創構東西兩序計各六楹仍繪七十二
子及諸儒之像重門洞達繚垣峻整黝聖丹髹且
以法又開堂筵齋室一區端大曠朗倍越疇昔凡
閱弦聖始克完美於是薦獻有位講習有居前廟後
學輪奐聿新觀禮懷和之民胥為練歎矣饗薦為期
教諭王煥局使張元禮拜手謁文請記其事嘗謂孔
子之功與天地同大孔子之祀與覆載無極堯舜禹
湯既往道在洙泗立言垂訓儀範百王後世賴治之
君欲求仁被蒸黎則必崇奉其道而恭嚴其祀始
秩前軌者乎今 聖天子茂舉盛典于上賢有司
遴彞憲于下廟焉以致羹墻之思學焉以圖漸磨
化士生茲時何其幸與將見馨香祀楚趨躋外

瞻廟貌洋洋如在親師遜友質難請益斯弦斯誦相
規相勸勸培仁義以錙其躬泳禮樂以肆其業他日後
髦輩出選德貢藝于以周布庶列贊襄嘉猷終收效
用于顯赫者斯不負 朝廷期望之心與夫縣官作
成之力也敢告
多士其思勉哉

楊公政績記并詩詞 邑教諭叙南李康撰

正統二年丁巳交趾楊季琦蒙 恩推知涇城事祖
其比百廢墜弗稱神棲民失瞻仰仍於錢穀購之
暇謀諸僚佐人謀僉同著龜協吉相俸贊集羨餘命
工掄材修補廢墜越明年戊午政事聽成重民事也
又明年己未大成殿成尊先聖也庚申壬戌風雲雷
雨社稷壇成重神明也癸亥布按分司成明倫堂成
縣倉預備四倉成甲子道觀僧寺成二郎廟關王廟
成凡其奉神之宮接官治民之虞師儒齋宿庖廩之
所吏胥廨宇舖舍之備計屋四百六楹苟完矣以其
事務繁冗未遑紀載慮其久遠無徵畧舉各年所成
之跡刻石以俟同志君子尚有考焉正統十一年三
月望日儒學教諭叙南李康撰記 僉事張楷詩宣

德初年任雍州此地婁涼三日留縣官疎庸吏民散
 百務解體誰能收令持憲節循民俗政事有條黎庶
 足民風里化脫然殊知有循良作民牧循良已歷七
 年春民似嬰兒戀二親待君九載功成日擬詩
 庭借寇恂○送楊侯之延平大常引循良
 人風俗盡還淳明月映花村看陰陰桑木
 忠義滿懷霜水方治又重陞南
 楚撫萬民恩澤彼此如陽春

楊公增修廟學記

中書舍人長安吉人撰

其畧曰 朝家知治本於教教本於孔子故于郡邑
 各建學以敦治化之源設廟以崇報祀之典制同海
 宇然廟學始建於洪武丙辰重修於正統庚申滋久寢
 邑廟學始建於洪武丙辰重修於正統庚申滋久寢
 敬弗支弘治庚戌雁門楊君泰來尹是邑講學行禮
 之初即有志更作適陝西按察司副察巴陵楊君一
 清董學政按部澄城謁廟蒞學觀其狹陋頽殘傳備
 檄葺理尹遂慨然爲已任慮材鳩備拓地積粟用無
 定所取之于公贏後無常夫使之于農隙經始於法
 治州廣正以望日落成于是年十二月末旬大成

其容疏廟其前所未有也廟廡各十楹
 三其舊則易之爲觀堂東西兩齋各五間堂
 六間門皆石額扁曰方員平直摠爲一門額其
 義路禮門於異間建神厨神庫宰牲房各三間
 廡舍分置門內大門三門位然爲邑人瞻仰
 咸規模宏遠足以垂造士命工鑿井於神厨
 味清且其祭祀飲食神人共賴師生欲紀功貞
 發予文夫養而不窮大焉之著楚揚尹將有事於
 學校而先爲此井亦養而後教之意也其知爲治之
 居哉 聖君崇儒重道訓憲公誠意以振起斯
 文揚君爲良有司又能奉承上 命而作興如此彼
 有於秀士仰觀新宮必思材如大不以克棟梁之需
 每甄而小之爲不勝任之物備家新井必思學如流
 身及泉而後已母九德以自養吾知君子當有
 焉之坊也永垂不朽矣喜幸不盡言其常然與作副制
 備錄之重民力也此登壇
 學之修所以可善也

劉公嘉沐碑

王在上... 榮寵而... 在迷化... 肅不... 敬... 實若夫... 故... 城... 甚美... 示人... 紀... 烏... 禮之... 禮之目並肩之體皆氣之所為也夫氣所為偶然而

烏足異父老曰常聞之嘉禾之書垂訓萬世有年之... 紀載之春秋夫周公之聖非導主以誇孔子之書非... 示人以不惑者謹災祥重民事也古者鬱鬱之尊用... 以灌神故曰一稗二米和氣所生今日之祥何以異... 此劉子曰父者愛我矣然令無德焉不足以堪此父... 老乃歷階而上再拜進詞曰吐等山野鄙人無所知... 識然聞之君子矣物有所感類固相召天子修政則... 祥在四夷故海不揚波重譯斯至諸侯修政則祥在... 西境故楚王將霸厥有萍實大夫修政則祥在一家... 故三鱣之降楊震乃陞今之郡縣古之侯國境內之... 祥非令而誰夫天之所彰不可晦也民之所與不可... 奪也君子不引高以遠眾廢天以爲異人無辨焉劉... 子乃大笑曰父老勞苦矣其罷休就舍古人有言會... 天之功以爲己有令也敢掠天之美乎卒弗止于是... 父老退而相議曰吾令長者也奈何自張其在吾民... 乎私相刻石紀其事俾五泉韓子序之以詔來世昭... 令之休焉韓子曰夫循吏之致祥古有之矣張堪爾... 岐魯恭三異載之史籍彬彬然可考矣夫人民者天... 之心也故曰天視自我民視天聽自我民聽守令之... 卷二

職親民為近其感召易矣予期有李生趙生皆從劉子道為予道劉子治邑甚悉其化俗似文翁斷獄似廣漢催科似陽城有文武材善治兵事澄城舊苦盜畏令屏息不敢發禾之生為不誣矣

兵憲張公延恩祠記 邑令河東劉一中撰

予家蒲坂距澄城僅百里雖異省而聲跡常相聞若往年兵憲張公平寇英烈蓋已聞其槩而竊慕之及承之茲士士人壹壹傳頌而又獲其詳也先是寇首李午挾妖術自山西入陝煽惑有年其徒若洛川邵進祿等黨寇數千謀不軌初據虎兒溝麻線嶺剽掠縱橫建旗幟製冠袍蓄兵刃妄稱天王以白為號遠近翕應勢遂猖獗正德壬申十月丁卯延安衛指揮陳政率眾往緝遇寇死焉戎馬器具反資其用寇自以神助明日擁眾陷洛川城脅縣令妻子殺之寇勢益熾流言自澄郃白水韓城諸路先據陝藩間者震竦十一月辛未朔寇漸逼澄城居民逃徙奔命有立斃者邑令韓齊教諭劉伯詩恐不支甲戌告援潼關兵憲張公即日發指揮張潛關健先道丁孔發指揮彭松張良臣尾而應之各部官軍總五百其整備

糧計料應候則同州王良弼同知李耀成宿以率師直蒞澄城張潛等分入白水諸路各要隘伏兵寇知澄之有備也即夜出黃龍山移營據白水彭衙寨震撼自若張潛關健彭松由白水兩路執公令旗招諭不下乃與之角彭松壘急風益大各救捷暨百戶王珍死之寇復逼彭松壘急風益大各救兵松馳壯士報公未及至時公已進兵次王莊鎮去寨幾五十里矣夜半忽下令士馬盡飽食整隊進不知者謂公進之無故頃焉壯士至人殊異之公始泣下旋即奮然自誓以委身決敵且以死忠諭眾眾皆感且懼踴躍向赴侵晨臨寨相寇壘四空分兵環守自屯營於黃龍山之隅望寇寨猶在腹裏眾危之公先迎寨連發矢中二酋諸將士發矢如雨寇健敵不棄公命砲手架鎗砲十餘種掩於士馬尾忽開營並發火而飛矢隨之寇中傷者無算死者自焚公曰寇已迫勢欲颺遁當自我營奮出矣迺擇奇兵四百人伏於西北岡下是夜分月色皎然寇累自空陽出直衝我公命連發砲諸路將士齊至而岡下伏兵自寇尾擣之寇大潰公倡眾擊厥明擒殺過半復

暨招旗戒妄殺降者二百有奇斬首百四十有奇擒
 獲百四十有奇旗幟冠袍器械妖書不可數計羽目
 會師比餘孽魏顯續次斬獲殆盡自是民得息塚瘞
 生侯公凱旋雍州道左咸曰吾今復見天日公之功
 也公蹙然曰為民上者弗能先事弭變俾赤子弄兵
 延及良民橫罹鋒鏑而不得以天年終者方自引咎
 尚何以功為眾感泣明年癸酉邑耆老趙旺石乘常
 田錦石仲張倉等謀曰張公於澄人有再造之功而
 不自處直吾父母也義不可忘願祠而祀之遂相率
 殫力規祠卜邑之西南隅構堂三楹中肖公像外設
 門券扁曰延恩祠告成既久眾恐磨滅而不傳復懇
 乞予以記予嫌以宦屬或襲奉諛之誚眾不悅曰張
 公遠去我侯久歷茲土吾民所以追慕懷思於張公
 者信非侯莫能悉也予辭不獲已予雖不識公嘗遊
 京師得公之大較矣公名禴字汝誠號西盤順天平
 谷人登弘治己未進士初授戶部主事繼改刑部員
 外郎郎中當路以公才行特著推改監察御史出按
 山西風憲赫然尋陞大僕少卿進都察院右僉都御
 史巡撫山西人同鎮秉道嫉邪大有安攘之績後以
 情忌謫泗州守去之日軍民遮留者甚眾及泗州時會

重修譙樓記

兵部尚書朝坂韓邦奇撰

漢賊猖亂公督兵截殺地方多賴保全彼有去思之
 碑可攷也今轉潼關再活關中萬命所謂志士仁人
 捨身消患而不自以為功者也於戲張公之不屈功
 也其言仁民庶之不忘德也其言義上皆能仁則何
 至於致寇下皆知義則何至於為寇繼今官僚士庶
 悉安其分而歸於仁義焉則澄城為善俗樂土矣予
 故書其美以勸因為銘銘曰妖之官民之德摸之遺
 澤之淫厥寢斯作厥功永倬正德十一年春三月吉
 朔壬午
 建石

古今有未遇之賢無難舉之政有不善之治無難治
 之民是故人存則政舉欲善則民善矣昔漢廣陵前
 後二千石治之者幾人而盜起張綱單車之任而盜
 降顧一廣陵也而修亂之異者治之者賢與不賢善
 與不善耳吾陝之澄城素號難治吏於茲土者多患
 苦之謂其地瘠而疲也謂其事劇而難也謂其民健
 而尚許也夫瘠而疲則賦稅多逋欠劇而難則應酬
 多積滯健而許則詞訟多証在是三者皆尹之要也

且弗盡而况他及乎是故縣治學宮城垣凡百皆捐弗緝敵也甚矣嘉靖癸卯公來尹斯邑不數月連者完滯者通訟者平且簡皆數十年之廢頽一旦振而起矣于是民和頌與通悅遠聞乃撤謀樓而增損之曾未旬日煥然完美縣守城門齊堂皆將次第而更新焉何昔者難而今之易人所難而公則易乎吾聞公之治澄也嚴而弗刻罰止于懲奸寬而弗縱仁止於惠良廉而弗激取止于常祿夫三者皆政之經也公兼有之况以屠龍之手為割鷄之用乎然則澄之治也又何難哉是舉也工大而弗費役省而成速下無取於里甲上無損於庫藏云公諱光溥山東益都名族京闈解元戊戌進士拜監察御史左遷今職立石而記公功者二尹金君時用也法得附書

徐公吏坊記

邑人馬躍如撰

吏坊詳記記慎坊吏而詳及其餘也夫吏坊非慎則弊滋弊滋則害政斯無完吏其流至於不能官不能縣者多也潯城吏坊弊甚矣久矣房科諸不能蔽風雨架閣惟嘉靖二十一年黃明日無整秩弊其能已矣哉

廨舍圯又相率如舖店散處甚至朋淫速訟豈不愈滋哉無惑乎無善政無完吏或者淪胥於失德而縣稱極弊也近甲辰間天乃不遺澄人泄以待御一山鄭公式振百度政肅化行吏固不需于坊而弊自戢矣乃乙巳夏卽遷秩越秋暮洳以凡江徐公徐公首惟慎若坊以補若弊顧乃謀諸雅州楊太守庭偃師白大尹文魁合州姚判官卓德陽王主簿維翰有事於社學申明亭則日警于邊報盡力乎教場城隍井泉而未之逮也適丁未夏麥載熟既完葺院院分司府館與儒學門墻官舍爰始經營房科廨舍馬維時事簡信罕羣心競勸未幾房科東西真如解舍南比井如圖籍咸架司典比居扇鑰惟嚴罔復縱逸吏蓋截然有坊而弊無容滋矣惟九月初旁及獄禁女監預備舍養濟院將訖工則嚴霜後稼民思惻然徐公曰吏坊飾矣茲所墾三泉諸荒田餘粒無復厚助矣于是急完馬廩始置他弊以俟有年越已酉夏麥再熟二門適壞則撤而新之且完飭諸塔祀尋立四郭門以嚴捍衛載以所緝填隙地請于諸當道分給富民令各修立社稷山川二壇及名宦鄉賢二祠成一曰儒學訓導石州王幾廣昌王得祿乃令二

三子約躍如輩共登一山鄭公所為譙樓觀厥成曰
今而後政日稱善吏舉獲完與能其官而成縣俗者
其胥基於吏坊之慎與肆屬躍如為吏坊
詳記於學宮是歲六月十三日饒諸石

鄭公新修廟學記

韓邦奇撰

余生華嶽之下長而遊齊魯陟泰嶽遊晉代陝恒嶽
遊梁豫陟嵩嶽遊荆楚陝衡嶽歷吳越觀于甌閩足
跡將遍天下凡梵宇琳宮巍然壯麗有上擬 廷闕
者類皆其徒自為之迺閱孔廟視學宮頽敝剝落甚
者不庇風雨今官于郡縣者獨非孔氏之徒與且琳
梵之修建 國有禁例若廟學又孰從而禁之哉侍
御鄭公諱尹是邑未期年政通民和乃撤文廟學宮
而重葺之神有依而士有業羣情大悅於是教諭何
君相訓導王君幾王君得祿率諸生韓照習朝用路
雲備索問記若公者其真孔氏之徒與余讀宋史至
循良傳意其人必吁吁煦煦無所動於民也及觀其
治行迺肅紀綱正法度闢四野實倉庫部盜賊濟水
渠繕城池抑羨併修武備謹置郵禮百神興學校于
是漢史臣之有識也若公者得不謂之循吏也哉公
之素善吾余已備識於譙樓記其行已立政昔孔氏之
徒也豈特廟學之修而已哉使琳梵之徒見之亦將
嘆曰吾輩方行天下獨見鄭公耳公諱光溥字伯公
彌一山山東益都人起家進士嘉靖二十三年甲辰
冬十月既 望立石

修建社學記

邑人楊庭撰

天下物事久而必敝亦自然之勢也惟敝而弗補則
終於滅而已矣易曰蠱元亨貴於補然則君子之責
莫急於補敝洪惟我 皇明文明天下都有學郡邑
有學里社有學其教人之法無非明體適用以馴其
極而里社之學尤為根本之地不可緩也故吾縣六
十四里咸有社學建於各里人煙輳集之處以便童
蒙趨向今皆敝而莫舉所存止與教讀之名而已惟
郭下里社學在縣治前基廣二十步袤倍之前繕垣
以廊為殿榜房廊之中豎扁為社學內堂若干楹兩
脇房如堂數弘治壬戌敝壞極矣濱州徐公政作縣
急補之撤故更新而堂復翼然朔望每考課生徒
提學上蔡李公遜學特注意於茲而吾縣童生動存

數百不久徐公擢苑馬寺丞延今三十餘年敗壁頽垣視若丘墟邑人教子弟者不之道院而之僧寺未幾將為土人易去歲癸卯教讀張東鄉老石光耀狀於官適益都一山鄭公光澤以御史謫知吾縣集材將為修葺舉乙巳秋七月擢守華州迺九月上命江津徐公知吾縣視篆三日首舉學校之政而汲汲於社學檢材鳩工不一月而告成其完美弗減於昔公急於首務如此其他可規矣或謂各里社學其不次第有舉耶而今而後小子有造由茲以熟夫酒掃應對進退之節精夫禮樂射御書數之文以臻夫成人之地豈復輾轉轉寄踪跡於虛無寂域之境哉又豈不存以副吾皇祖設立學校之深意與工始小春而落成於長至後五日於戲公之補敝何神速也哉大明嘉靖二十五年丙午歲仲春清明吉日立石

增修城隍廟記

邑人石道立撰

予讀祭法見聖王之制祭祀也能禦大菑則祀之能捍大患則祀之蓋古者方澤祭地之外如嶽鎮海宜

以及山林川澤丘陵墳衍凡地祇之屬各有常祭城隍保障邦土捍衛民生功不在諸神下血食無與豈人心之所安哉故自唐以來郡縣始建祠祀其神第加以爵號雖極尊崇之意而實禮不經莫此為其國朝洪武庚戌既正天下神號以洗前訛而郡縣屬亦命城隍上之俾之察善惡以通幽明實與守令相表裏與至重也澄城隍廟唐正元中建今所屬故歲時香火悉歸之嘉靖乙巳秋江津徐侯效賢稱篆茲土視順群心仰舊廟修祠謁之禮顧徐侯諸期撤舊而廣之越三歲政通人和百廢具舉迺謀新正殿次作前軒五楹翼以鍾鼓樓又次作後寢三楹中肖以像繅以周垣限以重門於時梓人獻奇後夫奏功輪焉與焉視昔不啻倍蓰事既竣督工耆老相率揖予曰夫祀國之大典也肆今廟貌嚴矣竭度妥靈修祀秩禮徐侯之功也且財出公羨無剝下之嫌工以直傭無奪時之慢不啻侯茲善之矣蓋議諸予惟治民事神守土者之先務徐侯統攝陰陽靡神不舉若城隍昭載祀典此境內早滂霖膏神

實默相之視他祠尤加誨焉禮也雖然幽明之際遠矣我侯惟致力於民者盡故致力於神者詳向使勞民傷財則主木之興適以斂怨作廟之功將曰崇詔神豈安之人其誰永傳之哉侯之功卓卓乎其何紀矣他如葺學校以育材築城郭以衛民名宦鄉賢有祠諸壇增墮有屋崇祠祀修缺典藉前政所沐暇者於是乎並書之嘉靖二十九年二月四日

徐公追思祠記

戶部員外吳橋李懿撰

惟王建國設官各有分職以為民極縣令之職掌縣治以守縣地親縣民任至重也凡縣令生有遺愛沒嘉靖乙巳秋江津徐公故賢以才舉子知縣事不三年境內肅然稱治迺天不憖遺以已酉歲六月卒於官於時士哭于庭民哭于野如失慈母然既期父老百餘人歸公治行列諸墮以祠祀請燧改情移哀痛如新嗚呼公何修而得此哉蓋封南國之棠者思召伯之政泣峴山之碑者追叔子之德民之請祠公之德政來之也稽諸墳讀謂其廉而慎也寬而肅也剛省

而賦均威行而愛立也土彬彬而民于于也祀典如萬物在春風中而一草一木皆有生意恬然如江湖波靜而纖鱗巨介各安其所公生而澤民如此誠所謂盛德必百世祀者哉父老述公未卒之前兩月於謂人曰吾生為縣令不負於民死必為城隍何負於我卒之夕人果夢公我冠緋袍入廟侍衛森然塔下羅數十人如刑獄考訊之狀嗚呼公生而正直沒而靈神理所必有安知他日不能驚動禍福人哉昔桐鄉之祀朱邑親之也羅池之祀柳子厚神之也今蓋人祀公於二義實善之先是預備倉有隙地公鑿井以利民汲今之祠適奠其中民飲公德殆源源不竭乎時知縣教佐主簿王致中咸有志於公者工藝進焉義不可以避嫌謝敬屬管城子紀之夫彰善者陳軌振德者廣訓則斯祠也又將以風有位焉茲泰之意也詩之教也春秋之法也君子幸毋曰私嘉靖二十九年歲次庚戌冬十月穀旦立石

習文學瘞旅文

石道立撰

嘉靖庚寅歲余借諸友卜舍考業適邑城隍廟有置
 棺東廊者詢之父老但云洛川縣王簿家人不知
 士亦不知姓字越三載無人歸墓且委棄廟中至有
 俗務紛錯竟不果迄今歲壬辰三月某日始卜邑
 壇之長隅掘一坎空之又以肴一豆飯三盂化冥紙
 三封呀嗟涕洟而告之曰嗚呼傷哉爾快何人顧
 露於耶吾澄城庠生習朝用也吾不知爾郡邑爾
 胡為流離棄狗為茲土之鬼也耶古入重離鄉聞爾
 從宦遊志不過溫飽耳乃竟墮厥命是則可哀也
 爾屬纊時敢而手足妻耶子耶是則可哀也使
 樞鄉曲依松楸即幽宅爾心亦少將矣冷若此
 可哀也吾雖不爾識但寓形宇內吾同胞耳念
 之無依軫懷嬰念凡三越歲矣今乃持香燭來
 者將以安爾鬼慰吾心焉爾縱不吾知吾能為
 已耶吾意爾旅而死抱無恙之悲矣吾為爾釋
 之夫東西南北同一中土也何懷鄉之悲哉長
 地吾大父母也何遊子之悲哉四海之內皆兄弟
 何孤特之悲哉吾瘞爾土於斯則晴祭永錫矣無
 無子悲也道旁之塚壘壘而徘徊而徘徊矣無以

無侶悲也悠悠夜臺爾魄永安矣無為厲於茲墟也噫

邑人劉世英

暢公增修城隍廟神樓記

邑人路車撰

邑城隍廟肇建於唐正元中廟之前故有二樓厥後
 毀其一獨存其右者亦凋泮幾傾廟嘗有重新而樓
 以功鉅未之及也邑侯暢公諱孟樂號念川以河津
 鄉進士視篆于澄五禩矣每謁廟輒太息今歲壬午
 行春祀之禮會士庶咸集迺嘆曰治民事神有司之
 責惟神為一封之主國家捍災弭患為生靈蔭庇者
 在此顧廟貌弗飭而聽其坐廢慢甚也慢神者虐民
 之徵曷用官為諸士庶頓首前曰侯言及此澄之福
 也我輩藉神休以生以寧思致力于神者乃其素心
 往惟苦於賦重後頃欲為弗瞻耳此來我侯軫恤者
 殫思調劑者多方逋賦均矣繁後蠲矣竟慝良善漸
 以化而以興矣冗費敝墜既剔去而更新之矣士氣
 民風漸有起色皆侯之賜神之休也於茲弗為復何
 俟焉侯曰其然乎吾當捐俸以倡厥工諸生杜一奇
 耆民楊榮關潼等即以侯意宣諸四民不移時願輸
 者肩摩趨事者子來暮春經始而初秋告成一大樓

首出中峙左右二樓如翼砌之崇臺覆之甃瓦複道
 行空盡棟連雲烟霞幻斯夕之狀嵐壑殊晴雨之圖
 接綠原而俯碧澗峇遠響而引清風歸然一奇觀也
 徵予記其事予惟齊雲落星高則高矣并幹麗譙華
 則華矣於民社無裨徒取嘆於勞民予邑地勢自東
 而下翻然急如駛馬邑序建於最西而厥廟居左不
 得此雄鎮則翻然若無所控制奚以壯形勝而聚風
 水三樓既峙則東自梁原尚門諸山蜿蜒而來入我
 幅幘龍蟠虎踞大華直對其前巍然屏樹中條環列
 其左雍如拱揖而且澗泉遶綠壺山送青形家者見
 之皆曰風水團聚矣裨益學宮匪小先是士子科名
 寢息今歲登午科者一人破厥天荒自是風物昌隆
 人文炳蔚曷其有已至如部屋編氓教明旦而稟童
 瘳之威官師士僚睹象巍而生敬畏之情則斯樓也
 又未始非齋戒神明之一助耳異日當有指公之
 如召之棠者何可無貞珉以垂于不朽萬曆十年八
 月初旬舉
 人路車記

澄庠創修泮池記

邑人路世美撰

粵稽周時太學置辟靡言水旋丘如壁以明和天下
 凡侯邦咸立鄉學置泮宮言形如半壁以半于泮
 也厥制頌不鉅歟澄城縣學即古之鄉學也自萬曆
 十七年遷學于按察署中規模粗定制置未完形家
 者每言新學獨得形勝第櫺星門基址太高于象為
 室塞頓池未鑿于理為沉滯沉滯室塞人文騰上必
 不速也癸卯科鄉榜果中一人而南宮之捷尚爾難
 之一時負時名者自出詎以修學科歟註誤多人十餘
 率闖學諸生修脯之議遂決言十令孤縣主以費登
 不舉會入觀典等自輸已貲酌費釀金峻厥功焉及
 觀則惡其事不已出詎以修學科歟註誤多人十餘
 年註誤者已自垂翅者亦復奮翼自是庠中鄉會踵
 接聯第者亦往往不乏風水之說不可謂不驗也竊
 思文廟與宗廟同固不當輕議改建倘使宗廟塵泥
 典廟者亦可建議更新否乎乃當日學宮既在城外
 非體而薪木毀傷忍使先聖無棲神之所耶前之人
 毅然而移之知有夫子不知有文法難者謂獨少一
 告耳彼亦知告焉則不得移也嗟乎事雖由移志實
 無他若夫星門泮水之所係似不當與擅移文廟者
 同科而亦蒙不韙遂令後之人一切應為者皆退縮

不敢為柳知余等為澄之後學計者長而所以自為
 計者有不能暇乎卒之公道昭明人文蔚起整在縮半
 通者皆能自樹如韓給諫之忠亮孫計部之潔清方
 表表耳目自然則風水之益不又宏遠哉况後來之秀
 若欲淵濂洛之道岸窺洙泗之淵源觀旅戾止觀斯
 池進則思主靜以澄心而去乎垢見止水之無波焉
 審動以研幾而精乎適見溥博之淵泉焉蓄德以精
 材而裕乎用見逝者之不息焉志道以戒章而養乎
 豫見盈科之後進焉家居則行法俟命抱浴沂之禮
 懷得值則功業運濟川之舟楫使人景而慕之
 謂澄齊之士有名儒也有名臣也庶不負當日開
 之初意乎厥後城東南隅載建小塔節學正始院
 顧甲戌仲冬癸酉
 科舉人路世美記

增修關帝廟碑記

路世美撰

嘗讀吳魏國志見一時俊杰其才皆不在漢壽侯下
 蓋功不能違時而立名不能遺業而就如遼蕭肅瑜
 軍建必然之策爭得焉之勢文謀武畧震耀當年不
 可謂不特務也

酬嘗不過一二世迄于今如轉瞬間事蒙遜之喪不
 豐權操之祀頃輒惟帝直氣凌青冀威神貫幽合家
 尸戶祝廟遍寰區北極紫濛之野南徇五島乃路則
 何以故當帝之時勢莫完於孟德如其強干仲謀昭
 烈孤策之胤敗亡之餘削弱為特甚操欲誘帝為已
 用毅然而不從權欲為子請婚罵辱其使如狗彘聞
 聞千里戮力漢室此其忠義不奪即在建武許洛間
 孰不仰之如神明論者後以壯繆疑之向使不明春
 秋大義少屈厥志俯就功名又惡能克塞兩關久而
 愈靈顧若是之恒赫哉繹帝日心夫人數語名惟至
 誠故如神也語云至誠不息不息則久帝之誠能動
 物信及豚魚揚于麥城未喻月品蒙死明年曹瞞殂
 吳人鄭泉諫冬曰昭烈曰陛下亦知關將軍為治
 鬼督乎魏人得首而金為之身吳人得身而玉為其
 首各全一體廟食兩國其精寔不獨依依西士也後
 主以帝明德英邁謚為壯繆侯隋唐來吳人祀于燕
 子磯宋追封忠惠公加封武安王明夫啟問加封侯
 魔大帝夫由侯而公而王而帝尊云至矣其教建廟
 祠如都門如解梁如雒陽如彰德禮云崇矣而安
 下邑凡思各致其誠者又何地無祠吾邑故有武安

于廟在縣治中嘉靖間邑侯徐公效賢以其秋隘
 雅遷置城中巽位其地甚爽增設宇門闔僅各三楹
 大啟闢邑侯毛公丹鳳殫心民莫敢化協洽民物安
 阜歲及大有謂帝新册尊號兩賜時若祠宇敞陋非
 所以答靈魄委至尊也款拓而恢之首義舉敦匠事
 者則守備路世光者民王可益經歷孔三仁木鐸王
 應長路運等一十餘人主持募緣者則釋性健神刀
 所攝侯德所感不數月未吝金錢叙銅木石酥如流
 水約畧計得千有餘金先是廟墀深下由城外董士
 墳築增高殿廡臺基度以九尺之建南北四十二筵而
 贏東西十五筵綠垣百十堵有奇覆以鴛瓦甍屏為
 兩耳門屏內一筵拾級而上建坊三楹又進也筵為
 戟門五楹門崇二維中三楹為神路廣容大高十筵
 左右二楹為耳門廣容小高五筵又比十和建為正
 殿五楹崇三維廣容亦五筵修容大高十筵前有
 饗殿七楹重加柱礎高廣如正殿之數而兩之軒殿
 洞明勝棟皆豫章材每有庶士八楹東西各九車有
 唐書上有獻臺臺前左右建鐘鼓樓則世處外苑也
 其寢廟五楹的厦三楹祀饗殿殿三之一其成議七
 月朔日為香火會無所不備之版諸器成之始也上起

蘭庄河小橋記

路世美撰

天啟三年四月會毛侯以續最擢去尚有石檻丹
 漆畫壁精舍缺焉未竟自是連年旱暵庚崇禎八
 年兵變失城又庚十三年之大飢十六七年之鼎革
 屢遷同事人周零畧盡每思向口之緩時屢豐踴躍
 林輿者竟奪于寇愷兵蜂而不可得順治五年邑侯
 姚公欽明以金陵世家來守焦上靡祠不修靡神之
 舉瞻仰帝廟欣然為浮屠合尖復建坊表于獻臺之
 上衆鄉老屬余為記余思邑有賢君則聰明正直與
 神合德庶民子來固誠芥之感也前有毛父後有姚
 母帝之靈也民之福也帝靈垂五百年而毛父後有姚
 顯于王泉之刹又垂五百年而為崇寧再顯于蚩尤
 之戰今又五百年矣其靈應指不勝僕默鎮長城巨
 輔皇圖不將于恭敬明裡者永承有賴
 哉凡襄事輸貲者例得書名詳見碑陰

登成縣志
 卷二
 登無水利溝深而流淺也問有水害乎曰無之無水
 害何以橋為塞裳濡軌以阻負取也蘭庄河為鯨頭
 鎮東南往來津要鄉善士李世昌起而念之獨力成
 橋焉問記于余余因崇禎七年破縣失家家于上流

泃游從之見鳥薪陶旋絡繹而東始不病涉也為之
咨差良父曰林蟻藤橋是亦經綸耳一命之士苟存
心于愛物于人必有所濟何不則李善士哉是可記
也嗣是荒歉頻仍有所濟何不則李善士哉是可記
方余又赴銓燕臺四年縮組東陽二年幾乎宿諾至
癸未甲申乙酉之變又與善士有攜手之行相視而
笑援筆記畧踐前言也人有與利如李善士者雖歷
遷變不易心盟以見余之獎成如此願治乙酉上巳
日記

國朝

重修察院記

邑令王用傑撰

邑何有察院也自代天巡狩之臣設而郡縣皆立
行部焉以為止宿宣糾之所填邑治並建無或缺焉
澄邑屢破以後灰燼矣余以三年六月治邑行李之
往來使傳之襍迷宿於民舍遇客怒其不實每加呵
譴不獲已請於當道可之因重葺焉既罷土木匠石
之費一自費輸而工力羈游手之已而之日飯二分

計續垣六十丈正堂五楹退食寢與五楹書記尉署
房共若干間儀門甬道正門隸人伺候突屋若干間
董成者縣相周閏生也記撮民工者工房白我生也
督二者王家勛石栢白坤也工始於四年上月望日
落成於五年正月廿日既竣而喟然曰周禮王國有
賓貴國有賓敵國有賓各以其至獻廷實庭條馬館
垣夷隸而晉衰橋梁不修而陳病今何時也而使郵
傳停息巡行不入乎雖曰勞民無所逃罪矣今令
姚侯外設馬廐而規模始脩善作者賴其善成王宥
貴賓持斧巡方誰何而至者諒其不獲已之心締造
之艱不敢述也謹記

重建城北樓移玄武神像記

王用傑撰

凡興後不關民社雖大不書曠茲樓榭廢於兵燹尾
矇不存矣五經殘破官此者視為風濤苦海何暇議
復余復建自煩治三年秋冬誠事而內肖玄武神像
非初也先是神位於城西北隅按神為黃帝孫意昌
之裔鼎成龍至去而上仙與黃帝事類同司天下洞
府之陰皂旗醜輪半劍以驅妖魅又按三式之書神

澄城縣志卷二 二
 司水主盜今以坎位移之乾方以水生金得旺相氣
 而南臨周道不備神不或歸之於坎則位正而靈衛
 之位正則數氣默奪矣余既禦黃張魏賀等盜又誅
 王宰不愆診盜其餘若周樊諸人猶可化誨者收其
 引馬獻俘編伍痛定思痛及念是樓也其木石工匠
 之費不越二三十金余自輸之督工者王家勳也民
 亦勞止二載羈遲未去而劇寇復來擾城新令姚侯
 即壘城之萬姓頌侯之威德而又以為移神正位之
 驗即未可盡信乃其畚築之始末莊嚴之根因實城
 與民共賴之者余不敢訕毀其詞直書以告後之君
 子順治六年五月吉日記

城西北樓創建天王神像記

王用傑撰

按唐史安西蕃叛朝廷憂之異僧不空建言於朝以
 為可使天兵禦賊越數日安西報至塵戰時見昆沙
 門天王像群賊惶懼解云悔罪因命有司建廟設像

設也按內典神住西域瞿薩國與贈部有緣獨揭勝
 幢暨伽婁接修羅怒折蓮柄任搜藕絲多聞為方便
 救護之門立於西北井妄也且玄武既移之坎位而
 神之威靈保衛見之彤管肖像祠之更非妄也方賊
 之發也廟既構像既飭而實於其中振漏鼓焉籌刻
 分明而窺城者之心遁矣余首捐俸若干金共守此
 城者若中士冠復擾城賴今令姚侯即其巢隄之人莫不
 曰侯之明威孔赫為百姓禦災捍患而亦有以香楮
 禱神祝釐者則神人胥慶矣余自為之記嘉姚侯
 也亦以見神道設教其方不遠云侯諱
 欽明字四表江寧人順治六年五月記

花署記

邑令金陵姚欽明撰

余菘蘆中一散人耳分符於草創之初甫看除目已
 損道心比至激則兵火荒殘風塵之鞅掌羽書之
 拏輻輳轉轉已成俗吏矣邑中二三長者及遠邇
 髦不以余之不肖時以韻事相商高軒至止愧夏屋
 之渠渠也每思昔人王事靡盬不遑寧處戴星出入
 麥稔屈晦晦初不聞以安居為念而公明入于春之生

仲舉下孺子之榻則又未嘗謙以為非况邑治西望龍山朝來致有爽氣南眺三峯呼吸可通帝座激泉瀉瀉俗慮浣也風洞翕翕塵襟豁也佛圖之鷗鳥可狎相成之腹藏皆清使身為俗吏又有一段俗氣撲人米元章有知不將以袍笏笑人哉若乃襄陽之山公習池寄傲揚州之何遜東閣邀賓謝安石歷仕三朝不忘高山流水蘇子瞻隨築一室必須種竹栽花人生貴自喻適志耳滾滾馬頭塵胡為者爰因廢蓮幕宅創建助履三楹為門中有廳揚曰槐堂前有軒顏曰花署後有舍目為水齋為鹿菴為澹軒碧梧蒼松乞自名苑竹君石交晤對不孤當此時事孔棘觸地掛碍退思自補舍此無可委蛇地矣噫歎一垣之限耳而雅俗頓隔雲壤馬無惑乎陶家彭澤獨寤寐於柴桑也後之觀者咎繇報衙而後卧理斯齋當信余言之不誣矣順

姚公循良善政記

邑人杜房撰

活六年桃月記事

古激蕞爾邑也秦郡譚周疲者必首屈指焉嘻城復于墜田有茂草賦繁民浦文黜武弛幾不可為矣

厥所縣前此守土者率皆以子備目前為賢經畫調劑置之不講故爾丁亥大旱月四表姚老父母知撤邑甫下車即與二三父老商確時事有病民者一切革去苟可以復故業清兼并以律侵漁懲宿蠹以恤若招流移以復故業清兼并以律侵漁懲宿蠹以恤民脂修縣志以登曠曠典章章著矣而且葺費官關水道風氣萃也賑儒寒復日考禮樂興也保甲申而新約飭嘯聚以息械貝條而較藝時神威以震強燹在而諒決明覆盆以政鴻功駿烈使僕難數實心實政居可知矣古者暮年服政三年然後政成今茲未雨禋行路曰百有餘年全活我撫摩曰我撲大行也詢道移撤姓之者旁午想曰聖天子大計吏時已識公道善御屏矣夫上下交孚華實並茂偉哉公績龔黃而下奚諫焉邑人士沐公深仁博澤慮不能久借手登有為公圖像組豆者有為公建祠尺祝者又有為公賦金勒石者焉誠懼至真若嬰兒子戀慈母房不覺喟然嘆曰孔子奕代大聖也子產亦春秋良吏也且得民難如彼然者公營何術乃獲此哉蓋公江南豪士關西循牧其宅心也嗚若白日其隄躬此

水壺故其其諸政事家視國子視民才與誠合而惻
 備智辨兼擅其美乃能致荒城生春九月邑軍化萬塔
 境起百務改觀也是宜澄之民瞻依公帑冒公窮窮
 焉爭配享名宦之開公真古之使民為古之民哉時
 余叨訓隴有客自東來皆一日頌公治行為三秦第
 一房被公愛渥知公又深故記其善政如此雖然焉
 非私阿公也蓋美則愛愛則記其善政如此雖然焉
 德矣順治六年正月吉日記

姚公申除荒糧記

路世美撰

國家經野則壤而削賦率有成額故歲有豐歉而額
 無損盜官有廉墨而課無增城輓近以來有司束於
 功令黔黎疲於征繕滿絲者奏最績保牌者居下考
 策策子遺不流亡則盜賊國家欲必安長治道何
 繇哉吾澠延袤百里強半皆山谷也土瘠賦重通負
 疲累所從來矣隆萬以前時和年豐多有朝仰蒲坂
 負耒而來者開苗佃種土著猶苦荒多天啟以後兵
 歲頻仍闔寓凋耗雖神臬輿圖尚嗟黃茂况春事窮
 鄉乎四遠之民望澄以為苦海始無復有承糧佃種
 者矣以故官此七而得給縣考滿者三百年來未可

一二指數甚且存急征激變憤慨傷生者屢事
 釀成盜媒而徵發則會又無寧日一不應而鞭朴之
 鑽竿之地大不理頤尾難支其不挺而走險何埃哉
 然又從而議紛紛以謂大黃劫之不惟不能已病且
 調護其不源而所以亡諸大黃劫之不惟不能已病且
 有立弊七耳今登心焉極矣惜未有悉病根而情陳
 之者金陵九姚氏于無天朝治四年來荒淺邑甫下車見
 城中滿日九姚氏于無天朝治四年來荒淺邑甫下車見
 無所泣對父老曰今無天朝治四年來荒淺邑甫下車見
 于此本州而求木之代源固而求流之長萬不能得
 于是虛心下問請命焦思備述致盜情由與夫拋荒
 之故慨然為民請命痛哭而死弟直如賞傳當年出
 上臺咸許其先識遠慮而四野呻吟如賞傳當年出
 泣下者余固知僕不為請而益野呻吟如賞傳當年出
 之實不過曰咸戶數而已蓋戶數成則人輩無不感
 應公家之征求夫營私家之木食生理既實一保
 蓋深惟恐上之難入一且舍我而去而前人不我
 遇國家有難竭力以衛上捐軀以拒敵凡此審編良
 家保障者何所不用其極焉我侯前此正所為良
 死也戶數今又安能除荒蕪田糧此正所為良

治大之去賢侯保障之實也釋子民無旁之累物
家學象二功無九哉于善道良可比魯恭卓茂其
嘉山詩定及審天輟第思其有詞心焉其德奇賦
漢之五詩定及詩記中矣漢書卷之四表江南京

重修
廟
士蒞城原毓宗撰
論記沐

日哉生... 者版築... 誦舉盈... 七教行... 害氣措... 倡厥事... 講財用... 力圃挈... 聚榛莽... 致用水... 成殿廡... 齋隨時... 頽壤而... 雷梁峯... 降於斯... 斯矣是... 陽之月... 黃如鐘... 事者學...
... 於廟講堂之事可以興矣問亦有為時
... 尊聖育賢定志辨分於是馬在
... 至行然後可征將以消六庚之
... 而巳乃手出囊金畢力修舉以
... 赴者雲從遂鳩王庀材儲總
... 物量工命且不愆於素人奮餘
... 土剪一株木一心百身蜂還蟻
... 則萃之凡土工龍見誠事火見
... 而卑時也斤斧巧塲再月而
... 先賢寓守悉新講幄飯
... 翦揮白墳而疑素艦
... 外扛石橋池種簣
... 無求安亦或可陟
... 居無求安亦或可陟
... 居無求安亦或可陟
... 居無求安亦或可陟

日哉生... 者版築... 誦舉盈... 七教行... 害氣措... 倡厥事... 講財用... 力圃挈... 聚榛莽... 致用水... 成殿廡... 齋隨時... 頽壤而... 雷梁峯... 降於斯... 斯矣是... 陽之月... 黃如鐘... 事者學...
... 於廟講堂之事可以興矣問亦有為時
... 尊聖育賢定志辨分於是馬在
... 至行然後可征將以消六庚之
... 而巳乃手出囊金畢力修舉以
... 赴者雲從遂鳩王庀材儲總
... 物量工命且不愆於素人奮餘
... 土剪一株木一心百身蜂還蟻
... 則萃之凡土工龍見誠事火見
... 而卑時也斤斧巧塲再月而
... 先賢寓守悉新講幄飯
... 翦揮白墳而疑素艦
... 外扛石橋池種簣
... 無求安亦或可陟
... 居無求安亦或可陟
... 居無求安亦或可陟
... 居無求安亦或可陟

淮徐之功在類獻誠矣嘗效修崇孔廟者代不乏人
即遠主入臨中國有遺祭闕里祀以大宰有修堯舜
周孔之廟立石經於門有封孔子孫元措者而三秦
勝事則有史所編西平公融起學舍一事有司將問
之高泰西入都見王景畧開陳以魯僖修泮宮齊宣
立稷下之事而猛且恍然任過尊崇孔聖興隆文治
秦之先事可以觀矣其子於中後辨文雅趨事勤幹
者若張耀祖丁運開麗舍於杜汝棧路一驥張修敬
等例得併書余末學無聞叨辱鄰封侯於政治之暇
好誠勝舉一旦而觀成焉欣逢厥美雖智不足以及
大聖而心私竊慕姚侯之善政不辭謗題而為之記
侯諱欽明字四表江南江寧人其沉雄果毅應變無
窮士民歌舞之口碑在志傳中茲不贅暨輪將飯工
之姓氏亦當記之碑陰順治六年歲次己丑稔賓之
吉日中立

姚公重修魏鄭公祠碑

邑人權時昌撰

自郵延肇亂徵衙被兵鬱攸之苗不知其幾民無所
止神無所棲行人心惻也今上宅夏四年簡賢與

自出宰百里金陵 姚侯剖有澄竹首問疾苦次到
辭祀謂邑人土曰古者地乎天成主祭與治事並
今時純熙欲求百姓之安莫先百神之享矣邑人
曰我民誰實無心第不克保聚矧克妥侑侯曰亦
不煩百姓者遂捐廉金遍葺群祠有創建有重修
增補有擴充有月餘而金壁曾不半禩郭郭內外
翼如晃晃如也一日過魏鄭公祠見震風凌雨泥
衣冕問諸生曰此非曲城文貞公乎向乃祠于此
生以掌故對謂因食采且長子孫馬侯乃作而曰
平生儀式魏公又矣不謂亦既建止也公以不諱
隱大子事見重太宗特器其直故自十思十漸而
二百餘奏無不剴切當帝心者至謂不可一日不
正右明良相得益彰誠不世之遇哉公不乘晝底
阿侯者一言而勝十萬之師并語而輟南山之幸
諭册立止諫封禪大畧進之仁義欲致君于堯舜
史臣贊為三代遺直詎止拜金鑾佩刀之賜已哉
吾克取公者在加意百姓云當太宗之初也謂大
之後誘民惟易公曰有仁義在封德彝力待其非
由公之言欲順天下之性者也太宗從此而德義
律者拂天下之性者也太宗從此而德義

年遂致太平所謂斗米三錢行千里不持寸兵復
 不閉路不拾遺貞觀之化振古有光仁義之
 其速也凡為民者不當如是哉余不肖忝有民社
 責敢不以公自矢觀茲廟貌且就頌歌以構之
 昔太宗見公宅無堂命輟小殿之材以構之其
 自撰其碑而書其石蓋亡之痛圖在凌烟矣余
 敢愛餘力願處張公網艾公元老後哉多士其
 之于時選材諷曰鳩工與事棟榱鏘而抱蜀與
 地矣諸生請記侯美記曰工役之興有時義存
 侈而豐不急是崇病民與公是易于興作不可
 正之索敵陋是撫政墮于國是彈于與作不可
 侯之出此也因其舊而新是圖藉其贏而縮是
 謂時以舉事乎新功既集前美益彰是庇是寧
 術術不謂仁以距遠乎陟降左右吏治靜嘉追
 武王事乃集不謂知以成務乎雖然猶未盡也
 以文貞自期待不措天下于貞觀之化致吾君
 舜之主未快也彼枝美蠲善又安以盡侯之深
 侯諱欽明字四表江南江寧人順治五年五月

姚公重修玄帝廟記

邑人楊本春撰

大易曰神道設教周禮云以事鬼神故營廟貌設儀
 像尸而祝焉時而祭焉罔非移風易俗之徵古云爾
 激邑街西舊有
 玄帝廟正殿三楹獻殿三楹神像一十七尊隨所祈
 禱無不靈應備載于明萬曆十有七年阮侯重修之
 記我
 聖清革命之初兵戈擾攘焚燬獻殿僅存正殿歷年
 既久風雨漂搖棟宇朽折墻垣頽圯邑
 侯姚公以江南之偉才當
 龍飛之四載特膺
 寵命視篆此土一日往謁其廟顧瞻荒涼之景輒一
 嘆息謂邑人士曰
 玄帝金闕化身乃長生治世福神廟貌弗餘而坐視
 其弊是慢
 神矣
 神將奚依哉邑人士稽首言曰吾輩仗神功以生享

輪財圖報固所願也茲
 明公有此盛舉誠
 神人並受其福矣
 公曰爾地方年來苦兵戈苦賦役甫離湯火重困而
 登戎系志

方甦吾何忍動民間一絲一粒一木一石耶乃獨捐俸資屬耆老樊尚賓王加積等命匠計工錫正殿起獻殿葺其墻垣金其

神像戊子孟春經始孟夏奏績矣功既成耆老徵余記其事余曰

公自下車以來戢跋邑安淳良撫流遺賑貧十聽臆綜核狐鼠無所憑依文事武備豺狼無所馳突而且

為之議緩征議改折修城郭以衛居民通水渠以利風水其于治民何其法至備而勞至深也而于事

神尤兢兢焉詩曰靡神不舉公其有之是廟之煥然一新也使邑人士過廟而觀

其廟貌巍我儀像尊嚴肅然起敬為善去惡不敢不忠不敢不孝

不敬不悌禍亂不作虞詐不生風俗丕變雖神佑之靈哉實

公諱欽明字四表江南江寧人昔順治六年孟秋吉旦立石

姚公生祠碑記 庶吉士蒲城常若柱撰

按生祠之建自漢宣時于定國始也于公夫獄平名郡人為之立生祠志深仁表誠服也頃天下凡事可

強惟哉不可強上匪情以馭下下懷智以自免欲求

素黎愛戴如也桑楚尸而視之于畏壘之問是猶向

真山而問郢也易曰中孚利貞豚魚吉利涉大川夫

當萃渙合離之時節而信之即此是中孚之實自足

成乎邪之化者乃何以必曰議獄緩死噫大亂初平

網民實多非或駭而于憲則或維而羅羅非即鹿無

虞而或以入林則鬼蜮舍沙而或以作歌一不議而

蔓連株引速民于獄君子觀鬪并而思仁規好生之

心能自也乎是知于公之生斯民與民之祠于公者

者乎 皇清定鼎三年于茲矣美兵之子猶未大靖黃龍山一帶有遺員者有鼓譟而揭竿者比來令長屢勦不服天兵所至玉石俱碎順治四年姚邑侯以終軍壯志叨繁縣級車入境直抵黃龍諭其負固者以自新之路崩崩崩拜如歸慈母侯悉有之會滿州兵至此勦羣不服者血刃得馘而外飛變于大人所者緹騎面縛累累軍前斯時也滿漢

語言殊異雖百口奚辨有百身莫贖已耳侯聞急至
 歲下刑故可矜或身已殲而家可宥或縲也疑故可赦
 其也刑故可矜或身已殲而家可宥或縲也疑故可赦
 可給彼有男女而無財可贖則捐金以資之此有牛
 羊而無方得脫則給犒以易之友人即不降心以相
 從乎而侯一以情聖勸譯者再不從則朝廷利害
 味動之又不從而長恩揮涕以哀懇之至有不信者
 願以身服其辜大人無不感動首肯而保全流難可
 謂無所不用其誠矣而且由荒糧曰毋使吾民受賸
 累也崇學校曰庶克多士善德心也然實無以為
 者則曰于我乎穀蒙士無以爲昏者則曰于我乎聘
 恐吾民之騷騷也故催科不立新法而由舊章兵革
 民之驚息也故催科不立新法而由舊章兵革不用
 而隸訟哀息因園空虛而容駟馬則今曰澄人
 賜戰願他日子孫高大其門以容駟馬則今曰澄人
 之干侯真有如昔人之視下公者馨香俎豆其誰曰
 不官余不敏與侯有以契開之德美又得澄士之請
 欣然蠲潔楮墨而為之記曰王步初政四海鼎沸若
 用濟大川用汝作舟楫舍姚侯吾誰與歸侯以明
 而流即署定有嘉賚之緣在非久爰立作相拜聽

王之休命所謂中孚以利貞應乎天者若可知矣區
 區信及豚魚謂足張侯已乎侯謙欽明字四表江南
 江寧人順治五年
 且月吉日立石

傳讚表

金

師節婦序傳贊 隆州錄事進士郭蔽試卷第

序曰自古婦人見於旌表紀錄者不必他才能但孝
 節貞烈而已有一於此足以光華彤管故史青史若
 夫陶母斷髮陵母伏劔指趙括以全宗聞食我而嘆
 族三遷示教萬里代征膠木求賢舜斯不如其先幾
 之智訓子之慈忠以為君賢而逮下固非常有至於
 拔水求死惡賊斷手臨江負石託隣致養一槩之善
 實有可嘉若蔡女文而無節王妻耕而非貞尚且列
 於漢傳標諸晉史與今所謂師氏者固有所不逮矣
 之以為師氏與夫同黨里婦家世為農十八歲歸雷氏
 者姓師氏與夫同黨里婦家世為農十八歲歸雷氏

性孝謹年二十四夫蚤死事舅姑以彌篤姑病且革藥石不效氏潛割臂肉雜飲食以進病良已居久之舅姑各壽終追養不怠守義謹禮不出戶庭者二十餘年矣夫之猶子雷判利其產密合其兄師達潛構媒灼私許本鄉楊珍欲奪而嫁之氏初不知也及期強師氏行師氏大驚愕誓死弗許揚及其兄訟於縣誣氏親受楊幣媒灼証之師不得明縣勒氏歸楊氏呼曰天乎不諒人只乃赴庭井而死聞者莫不傷其冤而咎其縣提刑司上其事請加旌賞尚書省具以奏聞上命賜其美名有司議師氏貞潔足以激頹風端謹足以為婦則介焉如石可裂而不可卷白焉如玉可碎而不可縱求之古人未易多得謹按諡法能固其所守曰節請諡曰節上可其事仍命縣官致祭焉○史臣曰三代之時教化有素自若國之后大夫之妻下至江漢游女皆能以禮自防無妬忌關雎之化洋洋盈耳及王道衰禮義壞未習旁流于釋老楊墨之邪說三綱五常之道百行眾美之端求之士大夫尚惜不知名節之風替矣兩漢以來匹夫匹婦尚有一槩之行若一朝廷莫不遂嘉旌獎表以敷頹風剛衰俗然書於史冊者亦無幾才難不其然乎况婦人節志有可稱是以前世向之夫陰

乎况婦人節志有可稱是以前世向之夫陰
聖人致親迎之禮以防之懼有自傷其身者
守義終身不易及被誣訴以死自明可不謂之節
士有尊爵重祿以自居一旦臨小利害回不待人
賈輕其去就其視師氏為何如哉○贊曰伊雷之妻
曰師其氏守義終養安貞一紀不幸被誣明心以死
悠悠蒼天不諒人只名動一朝廷恩光闕里
賜以美諡筆之信史既端婦則亦告君子
明

權博施墓表

崆峒李夢陽撰

權濟字博施登城縣人也其墓在縣城西十里段庄
社權君蓋有男女各三男曰惟均曰惟平曰惟誠監
生也女之婿曰雷頂曰許世昌曰楊復性孫九度座
生員也廉皮席庇庄慶孫女六女之婿曰李朝相舉
人白文魁曾孫四誥誦訓嘉靖四年許君以知縣
陞開封府通判是時權君歿而墓未表也敢請于執事
李子請曰嗟舅氏歿錦矣而墓未表也敢請于執事
者李子曰夫表者揚之名而勸之義也是故表死以

勸生表其先以勸後也表之鄉勸鄉也勸鄉以風國也風國風天下也何也人無有不激之而興者也表者揚之名而勸之義也許君曰嗟舅氏厥行足揚之而足勸之也足以勸生而警後是以武之鄉風之國天下矣敢以表請於執事者李子曰夫厥行可得聞歟許君曰舅氏稼穡至孝友體無踰服口鮮過味聚而能散有而不居李子曰是勤敬儉義人也許君曰舅宗族睦問黨愛僮僕惠飲必醉醉不亂召必往曰舅先來必留留必款李子曰是和易平實之倫也表哉許君曰舅嘗授散官矣不冠不帶也曰吾野服道遙人也嘗賓之鄉飲矣舅不之赴也曰吾何行而賓之鄉李子聞之乃警曰是高人也夫自世教之衰也聞假衣冠術俗者矣不聞其不冠不帶也聞求官飲以欺時者矣不聞其賓之而不赴也二者人之高也表哉夫人之好惡未有不冠不帶也聞求官激不興不興不勸自是權氏子孫不有念其先者乎生者不愧於死者乎鄉之人不有慕之而效者乎是誰勸之也故曰表死以勸生也表先也後也表之勸鄉也自是風之國風之天下不有勸敬儉義者乎和易平實者乎又不有不術俗不欺時者乎未必非

權氏之功也按權氏世居澄城趙宋時有為元帥者傳至權恩恩生享享生通通生允允中允中生士賢士賢生宗仁宗仁生定定生濟也濟娶楊氏克相其夫成厥行合塋於斯墓墓表其大者他見於銘志故不表嘉靖八年仲冬十一月吉日

節婦孫氏傳

進士韓原張邦俊撰

隆井婦者三雲縣倅孫公女也倅諱嘉士字名彥號巽澄娶王氏宏抱俊才應黜朱衣數奇命蹇竟外孫山有奇氣尚節義生婦於隆慶丁卯十二月朔七日質婉氣瑩不顛凡兒自孩提以至笄字未嘗輕一言笑嘗聞父敬戒從一之吉若有契者年十八擇配邑庠生鄭柄格修婦道大為姑氏眷注相夫苦學期於大成不意穹蒼靡佑夫病作婦供湯藥滌便溺焚香顯天誓以死代未幾夫疾篤甫屬纏而婦忽不見姑急索之已墜南院井中矣姑急呼家童數輩至井闕井中有呻吟聲姑大呼曰婦勿死婦有幼女婦死誰為乳之吾老矣婦死誰能事之井有垂綆可攀握而士婦依稀唯唯家童輩挽綆而婦隨上得不死初婦

之墜井也井深三百尺水深丈餘婦墜水底俄而躍起水面面有垂縷縷端一桶婦是履桶上乘縷而升比及井上衆方挽婦髮挺身而桶柄忽折桶落井中夫墜井水深丈餘必死不死而躍起水面乘桶而升桶柄折必死身出而柄折桶墜嗚呼異哉嗚呼異哉婦出井握髮整衣一如常態繼無撲損伏夫屍下哀號如禮期以事姑乳女事竣方死邑而幼女殤又百方覓死姊氏憐其孤亦其女以女之嫂氏恐其斃分其子以子之姊氏哀其苦倍其愛以撫摩之方是時也按夫柄生嘉靖四十二年九月二十四日至萬曆十七年四月初四日死方若干歲婦至夫死方若干歲人意其年少婦居節恐不堅婦則勉操井曰勤績幼事姑終身卒以壽終子嫂子鄭豪俊娶婦生子卒承夫祀今年三十有七終身樂可卜也邑令高若扁曰貞靜超塵教諭楊君扁曰烈義可風後主簿王君舉人署教諭文君咸有題咏予遂按狀作傳著詩并錄諸公題咏以傳

李烈婦呼氏傳贊

布政同州王弘祖撰

李烈婦呼氏激之而壯人也父曰應麟閩縣丞母曰姓媼出故廣靈令一詩丞無男子婦生而幽閉貞靜言笑不苟相俛得邑人李自誠子未蓋委禽焉婦有至性時對父母而泣生子不男豈能長統膝下哉于歸為李氏婦相夫勸讀機杼伊吾聲相雜而日不休朱蓋以是為博士弟子員事尊章孝如其母而章則繼叔郎有欲析者異財者婦不可吾夫妻年事可經紀門戶奈何以少子累翁姑拮据率瘠里人賢之朱蓋邁危謐婦知其不可為也晝夜侍疾血淚與湯藥同煎崇禎甲戌秋仲革而訣婦從一而終若所習聞吾逝矣女德不爽違恤我後婦痛而絕絕而蘇君子知我何幾我乎當是時婦有遺腹剪髮割耳以見志為此一塊肉未敢即從地下若免也男君之幸也妾敢憚勞事不可知髮耳具在殉豈忘心於忍死自護庶幾誣彌厥月秋季竟以哀傷墮胎則婦望孤時又疑膝有身先君子血胤無斬若子吾子豈必屬毛離裏哉已而知疾也非孕也則壑又孤死志遂決不可復回婦之父母逆而歸與其鄰媼慰解百方應之以笑旋復大哭翁姑有子儀特無後久淹人間世而使地下人謂未亡人寒盟乎防若甚周不得

問也各孟望日携一婢視翁疾抵其夫家簡筭以絮
 衣授翁姑莫識其意越三日滿兩下御枕自經同寢
 者覺而啟視氣已絕矣顏色如生五日不敗博士弟
 子員若而人鄉紳韓給諫一良孫舍憲士髦若而人
 聞其事於有司贊曰死固難處死尤難下宮之難
 客忠趙氏者謂死易立死難烈婦以死委曲以延夫
 祀天不胙李朱蓋較而圖難不濟以死繼之又未可
 與輕生殉名同日論也朱蓋以顯親揚名豈必
 不朽李氏子死賢于生人之顯親揚名豈必
 須眉丈夫哉為傳其事俟觀風者采焉

詩詞

唐

出關

中原還逐鹿拔筆事戎軒縱橫計不就慷慨志猶存
 策仗謁天子驅馬出關門請纓繫南越憑軾下東藩
 鬱紆陟高岫出沒望平原古木鳴寒鳥空山啼夜猿
 旆揚千里月還驚九折鬼豈不憐艱險深襄國士恩

魏徵

季子布無二諾侯瀛重一言
 人生感意氣功名誰復論

知禮闈入院題

魏扶

梧桐葉落滿庭陰鎖閉朱門試院深曾是當年辛苦
 地不將今日負初心

隋公泉

適菴老人

往事無窮莫漫傷野泉今日水猶香最憐清澈明如
 鏡光度宮娃照晚粧

宋

過鄭公莊

龍圖閣待制張舜民

破屋居人少柴門春草長兒童不識字耕稼鄭公莊
 附記浮休居士張舜民字芸叟守同州時過此

金

觀妙堂

在崇壽宮

節度太原郝子玉

至道錄來瓦礫間心通萬境不為難道人若到觀空處此理殊無妙可觀

元 遊玉泉 西臺御史彭衙潘汝劫 十日遊山歸未能杖藜又作玉泉行長林平許知人意時送一天風雨聲

木 過精進寺 將軍洽陽郭思德 離離禾黍起秋風馬踏晴川氣最雄武帝水深沒漢鼎蕭宗寺古隆唐鐘滿天秀色梁山麓一帶清流洛水濃前去西州望不遠塞煙連草有寒峯

明 賑貧 成化二十一年 都御史崞山梁景 匹馬馳驅未敢安可憐黎庶日凋殘無端蝟役終身苦百結鴛衣透骨寒村落荒涼鷄犬散妻孥奔走道

途難盡坡肉食知多少莫道身心得自寬 布政分司題壁 參政崔我忠 一泓澄水尚依城避暑遺宮易治平錫地唐臣惟廟祀棚鎗漢主有泉名洛河岸柳人爭渡古戍花封鳥亂鳴欲訪王氏貞節事斷碑荒塚草烟生

過古徵 參政于璠 古徵舊邑洛河邊閑訪遺跡思惘然避暑殿為參佛殿洗賜泉作谷溪泉長鄉政美存遺廟鄭魏功高有錫田昭代只今恩澤厚風流民物勝當年

按察司題壁和韻 副使曹璉 洛河東渡入澄城閭谷盤新路少平漢武棚鎗泉尚湧隋文避暑宮空名春日石寨寒煙鎖夜靜荒陵鳥亂鳴惟有魏徵庄賜地祠中遺像崇如生

登成縣志 卷二 七十三

澄城道中

提學伍 福

阡原落木曉霜凝按節衝寒入右徵避暑宮存思故
主洗腸泉仕說神僧日照羅谷丹霞爛瀑鴻雲門
練騰憶得叔教為政處去思碑石到今稱

魏鄭公祠

僉事四明張 楷

古屋荒坪下青山對茅茨停驂拜儀彤宛然貞觀時
念昔納諫日剴切無回思朝朝十漸疏古今良足師
平原養秋草封邑皆陵夷

憂旱

嘉靖十年

邑人張廷用

地赤天黃日風野雲恣傲漸從龍龜腸舊苦看將
又婦哭夫啼破屋中

關中飢行

李少參

張廷用

今年阜北前年旱麥豆全無粟未丰大家不用萬斯
相小家族摘聊克賜可憐清日苦飢民野菜根盡

為殮最苦數月不舉火更多過鳥鳴空村困陪流離
命如綫何止青州四十萬身無完衣面有鵠鄭俠當
時盡不足議賑幸賴汲長孺山帑發銀倉發粟自古
周急先極貧豈期官府知不真貧富已任里老口吏
胥還恣高下手憲檄却恐貧失字星大遣官再三至
遍踏鄉落親面頰團聚官衙並鎮市嚴寒瑟瑟利於
刀支羸扶老相呼號向前懇訴語不達騶隸呵筆甚
犬獠抵期告賑延殘生誰知貧極無人矜打點斡旋
動要錢富與乘猾况有情酸風鱗面身鷄皮悔不默
默眠茅茨哀哉此生胡不辰有生無食胡為人有生
不如無生好生在人間枉憂惱縱眼不救眼前飢一
審况今兩月過顛倒那移竟無益造冊匆匆抵擔塞
又說上司有鈞吉惡審不實欲親視
三番五覆空勞碌待到賑時恐先死

哀時俗

效白傳體

邑人張廷用

把酒思閑事民風漸不淳婚姻貪厚幣喪葬弄虛文
服飾誇新巧收成誦鬼神憑君勸一醉醉了若無聞
土山普濟寺

張廷用

土山盤屈勢層層中有招提十二楹碑古豈知曹景
儉時移不祀佛圖澄金沙谷共名俱泯雷雨泉隨法
尚靈縣來燕詞猶未
紀可緣遺俗信如陵

隋公泉和韻

邑人路其車

蹟古隋皇可漫傷清流猶帶粉脂香獨憐一脉甘霖
水不潤蒼生照曉粧

其泉

路其車

獨坐寒岩聽野泉參同一卷道玄玄不知老眼寬多
少萬里青山小似拳

清凉院

路其車

誰構禪林接太空斜穿曲徑與天通樓臺隱隱千
裏鐘敲轟轟轟一水中鉢洗潤邊常注露坐移松畔
生風閒來帶月和僧

七言古

題青蓮寺路其車
先生龍虎畫壁

太史韓城解胤越

我生寤寐寐王叔明獲見一玄本
整筆底能為造化工有時為我畫龍虎怒作之而
電舞忽然長嘯海天秋驚瀕獵獵如可觀意匠
腕肖之將戲丹青任酒卮等閑識得鴻濛面天地
來一繪師谷口停雲如匹綃洗腸瀑布瀉墨濤悅
遠顏等鴻毛有時稅駕崆峒高太華終南手可推
受人間
名利段

勗新進童子

邑令古殷陳璧

才著衣冠便嚴然從容端拜聖人前菁華雅欲文章
重根本還推孝弟先凌轡鄉閭天帝怒猶在花酒市
兒憐鷄鳴曉覺頻思
省好把希文自勉旃

和姚武功縣君詩

三十首之二

繫籍繁難地彈琴慚必齊夙興驚鳥宿遲寐嘆鷄棲
踈拙宜南嶺逢迎耻夏畦思之真爛熟細和武功題

又

辭縣諸艱備差關少送迎郭連精進寺山礪古徵城
避暑離官地浴陽聖水聲簿書何日了對此坐天明

和清涼院

邑人路世美

孤山梵宇倚霜空橫野荆榛鳥道通青草零落珠璣
側白雲繚繞寶幡中簷牙幾度天花雨松杉數聲雁
塞風方丈無人堆相
手夜邀明月暫相同

庚辰特授二首

邑令嘉定徐時勉

涓滴無補濟時身慙愧君恩千載新今日繭絲關六
計年來烽火况三秦原無逐走追飛技空作焦頭爛
額人力命兩忘真自在去留應等一微塵

荒城獨坐虎狼餘烽火銷殘草木疎只合劬勞安澤
雁何堪朝暮駭山狙三年下考醫瘡賦一篋中山射
影書類是聖朝無棄物其如日暮想柴車

荒陵暮雨

路世美

日金行歌古道旁蕭蕭翁仲晚烟涼婚停碑介君恩
盡水咽山寒蔓草長石馬雲深穢帝鑑寶衣兩壞壁

陰房徽猷不逐滄桑
交萃表年年俎豆香

古寨寒煙

金湯矗矗自巍然猶識平章馨鼓年營塢千秋屯虎
豹睥睨萬里眺風烟盈盈曲迭涖泚水蕩蕩平連太
華巔廟社兌遷留故壘長將天險應星壘

雲門素練

倏忽迷離似白衣還如正練剪天機兩崖佳氣暎丹
壑一澗寒光靄翠微意欲從龍橫海嶠勢不待族出
山扉莫言止足供怡悅時化紅雲帝座飛

羅谷丹霞

薄暮凌晨燦爛明橫空疑是慶雲生重重虹綵真難
摹燁燁文章織不成映水浮山錦作帶分鴉齊鷲赤
為城不堪寒谷長淪落裁就天袍貢玉京

洗陽故地

及骨伐毛豈浪傳鉢中誰解却生蓮心將石脉同清
淨身與閣浮任往還白日那知飛錫去清宵應共海
鷗眠于公指點神通窟雲在長空月在泉

避暑遺宮

天皇無計避炎歎窮谷迎涼不憚勞帳殿猶存殘柱
碣歌臺尚憶舊檀槽徘徊往事隨流水惆悵繁華只
野蒿勝地可能無勝賞碧筒潦倒任風騷

壺山樵子

村路盤山不種畚生涯終日伴糜麩打楮楫拙行吟
苦冷露寒烟步擔齊武帝祠前雲靄靄將軍廟上草
萋萋昏鐘敲斷興亡話遮莫從容下石梯

沮水漁翁

十里烟波隔市廛四時寒碧漾漪漣蒹葭掩映雙蓬
鬢風雨飄飄一葉船浪靜好看鱗甲動舟輕不畏水
天連羨溲物外垂綸老每餌魚蝦不用錢

隋公泉

邑人路世龍

萬朶旌旗一鏡天行宮到處纜龍船一去蕩凌多
恨空餘碧澗瑣寒烟

秦龍篇

七言古

邑令折城王用傑

劉累秦龍史記異同處擒虎終名士為鼠為虎東方
生亦龍亦蛇漆園吏三玄先生羅邃古靜向茅茨畫
龍虎嘯恐風生吟恐雲觀者聳劍栗其腋一朝點晴
即飛去百獸攢蟠莫敢舞坐客蒲堂日晴眩詫言神
物何曾睹九九八十八十餘一鱗一乳貴妊娠天下
文明從九五大人彪炳變如神鼻鼻嘲風生右怪昌
威三出氣嶙峋變現飛騰罷虎士躡躡經綸格後太
交中龍虎高陳亮武擅韜鈴下裴晏一玄先生非盡

師偶寫胸中不世奇若肯綯爛信妍姪多費鉛丹染
一小時太史解公蒐墳典題詩異世珍入選我本晉如
一儒儒秋水望洋海若淺命我疎狂妄續
紹大巫精靈秦隴蒲小巫見之神氣短

題湫頭有引
王用傑

湫水在縣西南三十里懸崖飛瀑如濺瓊珠下
有幽洞東有龍神祠溫泉旱禱輒應洛水湯湯
忽墜千仞遂限舟楫魚鱉不能游真封內之靈
頰金焦也繩烈先生長公麟趾喬梓纂志為余
倡言之余每事臥游聞之大快因賦之以告探
奇者

能觸已施瀉水力洛神又鼓破山才掀翻銀漢連天
落碎珠盤滾地來浴日虞淵波塵煥藏蛟窟室洞
門開画舫游鱗天塹
此油雲沛雨遣風雷

分水嶺
王用傑

分水嶺在縣西二十里地名漕曲一峯如削上
流若畫前而迴環復合岸東有飛龍痕跡鱗爪

俱見龍廟在馬古柏蒼翠攬勝尋幽真奇絕地
鄉民借以立若不但祠神更禦暴矣賦之以助

壯游

聞說崑崙岐積石又觀江水別為泥中流忽起巖巖
石兩道分開湛湛波水瀉東西吞勢遠龍飛上下雁
瀾多沉思廟古藏靈
變若迴巍巍柱各河

荒陵暮雨
邑令金陵姚欽明

蕭蕭松檟已榛枯憑弔千年憶壯昔風雨有靈天意
遠山河遺影月明孤雲連漆水寒逾慘雁過荒陵夜
急呼往事人間餘秋
草卧麟斷鼻點烟蕪

古寨寒烟

樹杪躋攀石磴懸手扶藜杖出風烟山控沙漠迷遙
嶺日上蓮峯景曠天秋神征夫烽燧外夕陽歸鳥戍
樓邊險成絕壁生悲
感為憶平章戰伐年

雲門素練

城北之山何者谷有時雲氣水霏微石門夜來垂綃
幕澤國天寒授編衣漠漠深秋透白馬容容好月映
朝暉三峯誰看公超
霧對此聊同萃下歸

羅谷丹霞

獨倚高樓悵落暉遙遙秋漢晚烟霏乘風翹自赤城
起迤照欲同孤鷺飛谷口子真勝槩泐餐霞中散客
心違向時採此山中
桂朱影光流白練衣

避暑遺宮

隋文帝此山中王殿曾擬長樂宮不見羽林屯翠
輦只聞牧豎拾青松荒臺像想千官侍鳥道依稀萬
國通風景蒼蒼秋水
冷夕陽終古恨無窮

洗腸故地

佛子乘雲去不還空餘咽空山高秋葉落玉千
尺纖月涼生碧一灣當川洗腸父縹渺近時瀑布故
濤漫客行到此情何
限滿引蕭然意自閒

壺山樵子

一持名山似海洲拾薪穿露豈仙流獨呼明月陪幽
賞信步青天亦勝遊叱石聊成羊牧戲柯應為奕
有番遠遙人世浮雲
外萬頃松風次第收

沮水漁翁

平津高閣不須開弋釣溪山正未回巢父仍歸東海
去任公卻傍會稽來一簑織雨時停擢萬尾翻雲
映杯肯向菴源尋避
世烟波回首便塵埃

隋公泉

芳泉森二瀉春波天仗簇擁翠輦邊寒寔遺宮千
月清光應此舊時多

朝坂李楷

狀頭七言古

天... 路一... 麟...

洛交之水入激鄉驚濤鼓浪出車... 尺排空浴日失... 乘國呼吸作雲噴... 龍龍不放妖蛟... 小... 中...

水東書院記

朝邑李楷撰

書院之目見於宋吾秦會城惟營齋... 王端毅之所為也... 故無之今邑... 門外負坎而抱離... 或以小西湖目之... 邵陽間又承... 水之東與醴州... 之言思之所未... 蓋池者未... 說吾嘗... 故詩書與地... 教教之人... 如茂叔則水... 白鹿尚不得... 心之地... 塵先生... 綜會三禮... 身任重... 若道統... 絕續之... 關當是... 時劇靜

Vertical text columns on the right page, including a large '水' character watermark.

修許魯齋之外廉孟子能抗言儒亦有成草廬先生
 以臨川之英為光吾道傳哉一時之盛也魯鼓薛鼓
 玉漆深衣雖未可以膠復而存其意以教之則一
 之近常有千百代不易之規制甚矣草廬之學不
 不亟講也君侯於草廬為同姓所宜予竊考之秦
 謂書院魁樓為形家之所宜予竊考之秦亦占魁
 於井鬼天官書又以為秦亦占魁魁北斗天之尚
 也今日之澄故秦之一邑也為權為衡亦於焉在
 侯其里多士為科名乎其望之為聖賢乎若侯其
 澄人言之於吳公聞河濱之言以論於衆曰臨川
 視我弗敢承推水東之意以竊附於西河潑人其
 勉之哉遂刻以為記吳侯諱定字澹菴真南淞江
 上海縣人

西湖書院序

邑人路世美撰

余徵左通韓魏上接鄜迤夾衆壑而邑戎馬之所
 沒餉道之所經由也以故二十餘年多受兵爭城
 殘毀者不可勝計廬舍灰燼幾巢林邑人正問學
 之功所由荒矣蒞茲上者非困於督通之艱則苦
 供應之煩且越斯道之爭際置不講甚且代有挾私

為小弊以致學額減半抑鋒止銳誠恨事也
 間吳父母惻然深念首集居民粗成縣治旋專學宮
 為神啓聖之缺以至文貞文目社伯諸祠凡關啓佑
 者翼然一新一日觀士子風謂其磊落英多綽有山
 川勁氣而進取寥寥其故何由邑人士具道始末奮
 然申請即蒙秦學憲題復復為中縣數十年不講結之
 氣為之一吐矣吳父母益愈鼓舞於西郭王官舊城
 坊四隣地鑿池蓄水創為西湖書院環岸築高臺七
 十餘丈盡崇長廊翼以扶欄如其長之數而兩之西
 南隅高定魁樓文峯突起堯堯如也轉東為祠堂
 居易即吳父母橫經課藝所又東為西新閣關頤水
 勢一絲不瀟落成之日歲在庚子文武同庚者某某
 若而人芝生於樹花寄於楸谷嶽河岐者又數七告
 見福鑑之力迎詳下瑞其捷如此人日景紀博物誠
 哉其神乎公曰偶然耳吾所倦倦者尋微亦氣之學
 北人未深窳得母苦於歲修之無地蓋之給
 耶於足召多士肄習書院資其館穀一時真楹立雪
 者不啻什伯計所夕講貫蓋駸駸乎大有進也向者
 塾書穢氣劃焉頓盡鄰邑候慕望而知為長父門人
 余意明道與學於漢波安定教授於蘇湖雖稍遐舉

言美豈直以徵水居右而漫然易之哉

序唐魏文貞公比徵家譜記 邑八路世美謨

按比徵唐太宗賜鄭國文貞公魏徵莊田也其子孫世居焉今太賢里有魏公墓南北碑頌多魏姓苗裔以邑乘考之且世有聞人吳邑侯展公祠宇詢其後嗣皆言自洪治初縣三鎮譜一事然味...公祠地寬濶必有遺稿因而修築繕...得鄭公七尺大碑深以為奇及洗閱...鄭楚相德政非公事也雖然楚相為...又出聖諭學士陳京所撰而書之者名卿鄭雲達也...鄭不亦奇異夫哉疾印分俸砌龕...補其斷文別刻于石再鐫全帙以...貞世系不見明文終屬憾事曷云...遺書曾續厥家譜又勒貞珉甃于公...然相聖文貞苗裔自是典血食不...七年之三月也余緝車鐸登响池...而續譜以存先臣之嗣垂世以昭大賢之作其用心

良厚矣事關文獻是烏得以無記吳侯諱定字滄菴

古叢三端記

朝邑李楷謨

雲間澹菴吳公治澄城之與子城隍廟和生華樹生...瑞其土日禮運有之劉向氏五行志又鑿下紀之焉...端臨祥異考不具非也其民曰父老有言草木暢茂...立穀登成豐年之兆也公再辨曰此何足以為瑞土...民會日天人影響也民天扎物疵疢則鬼神恫上...不煩則木榮農不困則穀升非公不能享此矣公因...辭曰予何敢以為瑞縱有之長上之教也士民之休...也...未盡其力大事在祀亦未盡其饗無狀田未盡其利...產觀類以為瑞或以語河濱李于李于曰古觀政者...事神蓬下二者其大端也邑有令以主明必有神以...治由供者氏之壙壑拾漢始祀陰兵相助之秦臣前...代兆燒以伯爵麗以顯佑或仍其城隍之稱其謂之...陸者臨社稷令之所相資以為理也令以安民民以

安土土荒若游情民迷老述未故未和國于甲兵悉
稷貴於金玉王榜獲榮老組繡塲團壽於河山今之
者祭先畜不如此履南紀惇惇不於田穀三致意焉
報也魏公之采邑有焉吳公嗣而結之氣
激也魏公之神格矣其瑞於楚也民又矣公之謙
其瑞也也所未盡其利是乃所以異於李理也民未
非瑞也也所以異於周宣也所以異於李理也民未
其力是也所以異於周宣也所以異於李理也民未
瑞者其瑞也也所以異於周宣也所以異於李理也民未
之諫抑亦以嘉禾名地魏書為文引雙岐之舊事宜
乎吳公之辭而不居也或人乃大喜而相告曰如是
之說今乃從河濱聞之其謂公為延陵之裔五葦之
俊曷如謂公為鄭公之裔數請以河濱之文勒於五
泉先生之後公講定滄卷其別號也順治十年任
泉先生朝邑韓公邦明進士以能文著澄紳為其
某順治十七年立石

澄城縣志後跋

玉泉子曰余為澄城志其事則徵諸見聞採諸金石
其義例則倣諸太史康對山武功志宗伯呂涇
野高陵志其詳畧可否余竊不自知正訛補缺則敬
望後之君子志甫成

徐侯即捐館今大夫滄州主員

教侯慎修職方之教始人黎獲庠績焉昔明道在鄆

晦翁在南康皆首重志事主員 慎思賢

二侯茲舉謂之善學程朱非耶 林木 欲雲

嘉靖辛亥春又識 同婢主員 白齋 皆障用

同較生員

白檀

習朝用

楊木

路雲衢

較膳生員

鄭思賢

梓人

王寶

王命

重刺較膳生員

路一鰲

路一鶴

路于飛

李天棟

富平書吏

師鳴鳳

長安梓人

秦惟丕

楊啓

張九德

秦朝

蘇賓

澄城縣志二卷終



